

Vol. XIX. No. 4.

December. 1925.

# "GANN"

The Japanese Journal of Cancer Research.

Founded by Prof. Dr. K. Yamagiwa  
and

Edited by Prof. Dr. M. Nagayo.

Editorial Office: The Pathological Institute of The Tokyo Imperial University.  
Published Quarterly by The Japanese Society of Cancer Research, Tokyo.

# 癌

大正十四年十二月刊行

社 法  
人 團

癌

研

究

會

第 十 九 年  
第 四 册

Vol. XIX. No. 4.

December. 1925.

# "GANN"

The Japanese Journal of Cancer Research.

Founded by Prof. Dr. K. Yamagiwa  
and

Edited by Prof. Dr. M. Nagayo.

Editorial Office: The Pathological Institute of The Tokyo Imperial University.  
Published Quarterly by The Japanese Society of Cancer Research, Tokyo.

# 癌

大正十四年十二月刊行

社 法  
人 團

癌

研

究

會

第 十 九 年  
第 四 册



# 社 法 人 癌 研 究 會 趣 旨

近時ニ於ケル自然科學ノ進運ハ頗ル著シキモノアリ、從ツテ其基礎ノ上ニ立テル醫學ニ在リテモ研究益々精ヲ加ヘ微ヲ極ムルニ至レリ、茲ニ於テカ從來ノ醫學の研究ガ多ク分科のニシテ、同一疾病ノ調査ニ當リテモ各自専門の見知ヨリ互ニ相離レテ其作業ニ從ヒ各方面ノ多數學者ガ提携シテ協同研究スルガ如キハ頗ル稀レナリシニ反シ現代ニ於ケル學會ノ進運ハ此從來ノ研究ノ方法ト共ニ共同の研究ノ緒モ亦自ラ開カル、ヲ見ルニ到レリ

癌ノ協同の研究ノ如キ其一例ナリ。  
古來宇内ノ隨所ニ見ラレ甚ダ酸鼻ナル難治ノ疾患タル癌ハ統計ニ徴スルニ之ガ爲メニ命ヲ致スモノ年々其數ヲ増加スルノ傾アリ、サレバ泰西ノ研究家ハ久シキ以前ヨリ其疾患ノ本態ヲ究メント企圖シ國家竝ニ社會モ亦之ヲ獎勵シ其研究ニ向テ多大ナル援助ヲ與フルノ例甚ダ夥ナカラザルナリ、然モ未ダ尙其真相ヲ捉フルコトヲ得ザルハ痛恨之ニ過ギズト謂フベシ、抑モ癌ナル疾患ハ内科、外科、其他各方面ノ臨牀醫學科ニ於テ扱ハレ其研究ハ解剖組織學の事項ノ外化學の竝ニ生物學の事項ニ互リ甚ダ廣汎ナル領域ヲ占ムルハ既ニ知ラル所ナリ故ニ歐米諸國ニ於テハ夙ニ癌ノ如キ大問題ハ學者ノ孤立の研究ヲ以テハ到底其本態ヲ闡明スル期ナキモノナルコトヲ悟リ各方面ノ學者相倚リテ

其協同研究ヲ遂ゲシメントテ企テ特ニ癌研究會又ハ癌調査會ナルモノヲ設ケ完備セル研究設備ノ下ニ上記各方面ノ研索ヲ分擔セシメントシテ研究ノ歩武ヲ進メ來リシガ更ニ數年前主トシテ獨逸國學者ノ主唱ニヨリ國際癌研究協會開設セラレ爾來各國ノ研究團體互ニ聯絡ヲ保チ之ガ研究ヲ進メントスルニ至リ我邦學者ニ向テモ先年斯ノ如キ意味ヲ以テ此國際的共同研究ニ加盟センコトヲ懇進シ來レリ、蓋シ我邦ノ如キハ歐米各國ニ比シ風土竝ニ生活、慣習、體質等ニ著シキ差異アルヲ以テ本邦研究者ノ之レニ加リテ此研究ヲ積ムノミニテモ或ハ比較研究上望外ノ結果ヲ齎シ貢獻スルコト尠カラザルベク且ツ我國ニ於テモ年々本病ノ爲メニ鬼籍ニ登ルモノ數萬ヲ下ラザルガ故ニ國家的ニモ亦其研究ハ忽爾ニ附スルコト能ハザルモノアリ、サレバ本邦ニ於テモ上記世界ニ於ケル現代醫學ノ趨勢ニ順ヒ又一面人類ノ福祉ヲ増進セシメンガ爲メニ特ニ國際の性質ヲ有スル癌研究會ヲ設立シ、特殊ノ設備ヲ有スル研究所ヲ附屬シ癌研究ノ中央機關タラシメ、又同時ニ治療所ヲ設立シ最新ノ研究結果ヲ應用實驗スルハ實ニ國際の時運ノ風潮ニ鑑ミ科學近時ノ發達ヲ移シテ人類ノ幸福ヲ増進スル上ニ於テ刻下ノ緊要ナル事業タルヤ明ナリ、之本會ノ設立ヲ企テ國際癌研究會ニ加盟シタル理由ナリ。



# 癌 第十九年 第四冊 目次

原 著

第四腦室ぐりおざるこゝむノ一例

福 田 保……三二

魚類腫瘍ニ關スル知見補遺 佐 川 英 二……四〇

きりぐらふヲ放射セル血清ノ靜脈内注

射ニ由ル人工癌きりぐらふニ就テ

獸醫學博士 市 川 厚 一……四六

抄 録……………至四二

白鼠及まうすニ於テ一定ノ制限食餌ガ腫瘍ノ

移植及發育ニ及ボス影響

エンセン氏鼠肉腫ノ退行現象

癌腫家族其後研究

まうすニ於ケル實驗的胎生腫瘍研究上ノ注意

Tactal ニ於ケル腎臟癌腫

杉 浦  
ベチヂクト  
ウオグロム  
ワルトビン  
ブルロウス  
ブラウト

黒熊ノ胸門部滑平筋腫

放射腫瘍組織ヲ以テシテハ免疫ハ成立セズ

惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ニ關スル研

究 一、肉腫(クロフカー系らつと肉腫第十

號)ニ對スルらつと量ノ測定

惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ノ研究

三、放射肉腫細胞ノ一同注射ガ同種移植腫

瘍ノ發育ニ及ス影響

惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ノ研究

四、放射肉腫細胞ノ數同注射ガ同種移植腫

瘍發育ニ及ス影響

もるもつと心臓ニ發生セル肉腫

腫瘍組織ノいんしゅりん含有量

病原體ト癌腫

## 附 録

癌第十九年原著及抄録總目次

會員名簿

ワ  
ル  
レ  
ユ  
ブリ  
ゴ  
セ  
ン

ス  
エ  
バ  
ン  
ス  
ス  
ラ  
ブ  
ハ  
ウ  
ア

ス  
エ  
バ  
ン  
ス  
ス  
ク  
ラ  
ブ  
ハ  
ウ  
ア

ベ  
ン  
タ  
ア  
コ  
リ  
サ  
ユ

第十六條 會員タラント欲スルモノハ其氏名現住所ヲ記シ本會事務所ニ申込ムヘシ

第十七條 退會セント欲スルモノハ其旨本會事務所ニ届出ツヘシ

第六章 役員

第十八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁 一名

副總裁 一名

會頭 一名

副會頭 一名 (內理事長一名)

理事 七名

監事 二名

評議員 若干名

第十九條 本會ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

副總裁ハ評議員會ノ決議ニ由リ之ヲ推戴ス

會頭、副會頭ハ會員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選舉ス

理事長、理事、監事、評議員ハ會頭ノ推薦ニ由リ總裁之ヲ囑託ス、但監事ハ他ノ役員ヲ兼スルコトヲ得ス

第二十條 會頭、副會頭、理事長、理事、監事、評議員ノ任期ハ二箇年トス、但滿期再選又ハ再囑スルコトヲ得

第二十一條 會頭、副會頭、理事長、理事、監事及評議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選舉又ハ囑託ヲナスコトヲ得、補缺員ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十二條 會頭ハ本會ヲ總理シ且總會、評議員會ノ議長トナ

副會頭ハ會頭ヲ輔佐シ會頭事故アルトキハ之ヲ代理ス

第二十三條 評議員ハ本會權要ノ事項ヲ評議ス

第二十四條 理事長ハ本會一切ノ會務ヲ處理ス

理事長事故アルトキハ他ノ理事代テ其職務ヲ行フ

第七章 會議

第二十五條 總會、評議員會ハ東京ニ於テ之ヲ開ク、但時宜ニ依リ變更スルコトヲ得

第二十六條 定期總會ハ毎年四月之ヲ開ク、但開會期ハ時宜ニ依リ變更スルコトヲ得

第二十七條 總會ノ招集ハ會報又ハ新聞若クハ通知書ニ依ツテ之ヲ行フ

第二十八條 總會ノ決議ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十九條 評議員ハ必要ニ應ジ會頭之ヲ招集ス

第八章 雜則

第三十條 本會ハ必要ニ應ジ支會ヲ設クルコトヲ得

支會ニ關スル規程ハ評議員會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 本會ニ書記若干名ヲ置ク

書記ハ上長ノ命ヲ受ケ庶務會計ノ事務ニ從事ス

書記ハ會頭之ヲ任免ス

第三十二條 本會ニ企品ヲ寄附シタルモノアルトキハ其氏名ヲ簿冊ニ登錄シテ永ク本會ニ保存ス

第三十三條 會誌「稿」ハ毎年五回之ヲ發行シ内一回ヲ歐文會誌トス但シ歐文會誌ハ希望ニ依リ實費ヲ以テ配布シ、邦文會誌ハ無料ヲ以テ會員ニ頒布ス

第三十四條 本定款ノ變更ハ總會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

# 社団法人 癌 研 究 會 定 款

明治四十一年四月設立  
大正三年二月法人登記  
大正三年十一月改正  
大正六年四月改正  
大正十一年四月改正

## 第一章 目的及事業

第一條 本會ハ癌ニ關スル研究及研究ノ獎勵ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ懸賞論文ヲ募集シ癌研究所、癌治療院ヲ設立シ又ハ學術集談會ヲ開催スル等ノ實行ヲナス

但懸賞論文、癌研究所、癌治療院、學術集談會等ニ關スル規程ハ評議員會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

## 第二章 名稱

第三條 本會ハ社団法人癌研究會ト稱ス

## 第三章 事務所

第四條 本會ハ事務所ヲ東京市本郷區本富士町貳番地ニ置ク

## 第四章 資産

第五條 本會ノ資産ハ左ノ如シ

一、癌研究會ヨリ引繼キタル資金

二、寄附金

三、會員ノ會費

四、前項以外ノ諸收入金

第六條 本會ハ前條資産ノ一部ヲ基本金トナスコトヲ得

第七條 基本金ハ評議員會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ處分スルコトヲ得ス

第八條 本會ノ資産ハ有價證券ヲ買入レ又ハ郵便官署若クハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ之レヲ保管ス

但場合ニ由リテ評議員會ノ決議ヲ經テ不動産ヲ買入ルルコトヲ得

第九條 本會收支ノ決算ハ翌年ノ定期總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第十條 本會ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ルモノトス

## 第五章 會員

第十一條 本會ノ目的ヲ贊成幫助スルモノハ内外國人ヲ問ハス何人タリトモ會員タルコトヲ得

第十二條 本會員ヲ分チテ左ノ三種トス

一、名譽會員 一、特別會員 一、通常會員

會員ハ本會ニ於テ發行スル會報及報告書等ヲ無料ニテ受ケルコトヲ得

第十三條 名譽會員ハ學術上特ニ功績アルモノ又ハ特ニ本會ノ事業ヲ贊助スルモノ及壹千圓以上ヲ寄附シタルモノニ就キ評議員會ノ決議ヲ經テ會頭之ヲ推薦ス

第十四條 特別會員ハ會費トシテ一時二百圓以上ヲ納ムルモノトス

第十五條 通常會員ハ會費トシテ毎年金五圓ヲ前納スルモノトス

# 癌

第十九年第四冊

大正十四年十二月刊行

原著

## 第四腦室ぐりおざるこゝむノ一例(附圖第一表)

東京帝國大學病理學教室

### 一 緒言

福田保

第四腦室ノ腫瘍ニハ<sup>(1)</sup>肉腫、血管腫及癌腫等アレド其ノ多クハぐりおゝむニ屬シ、臨牀上<sup>(2)</sup>其ノ壓迫症狀第四腦室周圍ノ重要機關ヨリ來ル症狀或ハ精神症狀等ヲ惹起シ、比較的早キ經過ヲ取ル事多シ。余ガ茲ニ記述セントスルハ曩ニ長興教授ガ<sup>(3)</sup>剖檢示説トシテ講述セラレシ際、紡錘形細胞肉腫ニ似タレドモ恐クハ第四腦室えべんでいうむ性ぐりおゝむナリト診斷セラレ、其後ぐりお染色法ニヨリ之ヲ確メタルモノニシテ、即チ第四腦室腫瘍ノ症狀ヲ現ハセル紡錘形細胞ぐりおゝむナリ。

斯ノ如キぐりおゝむハ稀ニ見ラル、モノニシテ尙本例ニ於テハ腫瘍中硬軟二個所ヲ區別セラレ、硬性部ハ所謂ぐりおすくれろーせー狀ヲ呈シ他ハ細胞ニ富ム真正腫瘍狀ヲナシ興味深キモノナリ。

○福田・第四腦室ぐりおざるこゝむノ一例



打ツ。

皮膚反射即チ足底、腹壁及バビンスキー等陽性ニシテオッペンハイム不明瞭ナリ、角膜反射又陽性ヲ示ス。腱反射ハ膝及アヒレス腱共ニ亢進シふすくろーぬすアルモばてらゝるくろーぬすヲ缺ク。上下肢ニ運動失調狀ヲ示セドモ運動性刺激現象ナク實體感缺損アリ。消化管系統ニ異狀ヲ認メズ輕度ノ貧血（三九〇萬）アリ。

入院後ノ經過。五月十二日入院後時々嘔吐アリ、同二十日ニ齋藤博士ニヨリ側室穿刺術ヲ施サレ（*pneumoventriculography*）れんじけん診斷ニ次デ側室内ニ色素ヲ注入シ二時間後脊椎穿刺術ニヨリ取りタル脊髓液ノ著色ヲ認メザリキ。手術後ハ瞳孔縮小シ光線反應アリシモ暫時ニシテ消失シ嘔吐起リ後、無意識狀態ニテ夜九時頃ヨリ睡眠セリ。翌二十一日ハ熱三十八度三分、脈搏一二五、午後六時頃足及腕ニ痙攣アリ。

二十二日朝尿中ニ色素排泄アリ。二十四日頃ヨリシャインリストークノ症狀ヲ呈シ、二十五日ニハ角膜充血及肛門筋ノ弛緩アリ、三十一日ニハ黒血色粘液物ヲ吐キ、六月一日朝ニハ唱歌ナド口ズサミ無意識中ニモ名ヲ呼ブ時ハ「ハイ」ト答ヘシト云フ。サレド呼吸不規則トナリ二日未明ニ死亡ス。

## 乙、解剖的所見（局所解剖）

解剖的診斷。

一、第四腦室内ノ胡桃大腫瘍（ぐりおざるこゝむ）。

二、内腦水腫。

三、腦皮質ノ萎縮。

四、視神經高度ノ壓迫萎縮。

五、さるこ鞍高度ノ陷沒。

六、後頭骨ノ穿刺孔ト後腦ノ穿孔痕。

七、頭部皮膚ノ浮腫等。

○福田・第四腦室ぐりおざるこゝむノ一例

## 二、實驗例

## 甲、臨牀の所見。

酒井某 十五歳女子。

家族史中父及父方ノ祖父が大酒家ナリシ外ニ遺傳的疾患ヲ認メズ。

既往症及現症ノ發端。出産ハ臀位ニシテ生來健康、十二歳ノ時腸ちふすヲ病ミ三ヶ月ニテ治癒シ、其後二三ヶ月ノ間高熱ヲ發セシコトアリト云フ。現症ノ發端ト考フベキハ大正十一年四月一日ニ不快感、頭痛、眩暈及嘔吐アリシ事ニシテ、其後凡ソ十日毎ニ發作アリ、朝空腹時ニ嘔吐アル事多ク、時ニ二三日臥牀スル事アリキ。嘔吐ハ常ニ頭痛ヲ伴ヒ或ハ三日位昏睡シ醒メザル時アリ、次第ニ複視及眼球痛ヲ訴フルニ至リ八月頃ニハ晝間ニモ嘔吐ヲ來スニ至リ尙歩行困難加ハレリ。當時醫師ハ胃腸障礙ノ爲ナリトテ其手當ヲセシガ八月終ニ至リ視力ハ益々惡化シ人ノ顔ナド半分ニ見ユル事アリト言ヒ、衰弱ハ次第ニ増シ遂ニ歩行不能ニ陥リ、嘔吐モ四日目位ニ發作起リ更ニ左足麻痺ト右手ノ弛緩起リ來リ大正十二年八月末ニハ醫師ガ其兩親ニ危險ノ警告ヲ與ヘシ程衰弱セルモ同十月末頃ヨリ翌年一月ノ間ニハ一回モ嘔吐ナク總テガ快方ニ向ヒタレド歩行シ得ルニハ至ラザリキ。然ルニ同四月初メヨリ再び惡化シ日ニ嘔吐加ハリ烈シキ時ハ唯黃色液ノミヲ吐ク場合アリ、間モナク一時ノ小康ヲ得タレド其後四月二十三日發作初マリ日中モ頭痛烈シク、五月初メハ多少良好、同十日頃ヨリ發作初マリ近藤外科ニ入院ス。

現症略記。一般ニ衰弱狀態ヲ示シ、顔面浮腫アリ蒼白色ナリ。外側斜視及外眥眼瞼緣炎ヲ認メ尙眼球突出症アリ瞳孔散大シ光線反應ヲ缺キ綠内障ハ無ク眼底所見ニ於テ輕度ノ兩眼鬱血乳頭アリ、視力ハ黑白ヲ辨ズルノミニシテ眼球運動ハ多少限局セラレタリ。口腔粘膜反射及顔面神經等ニ異狀ヲ認メズ、言語ハ多少緩慢ニシテ頭部ハ著シク膨大シ、打診痛ナシ。頭痛ハ特ニ前額及後頭部ニ於テ烈シク感ズト云フ。胸部異狀ナク皮膚ノ浮腫アリ脈ハ正脈ニシテ小、一一八チ

軟性部ニ於テハ細胞ニ富ミ間質ハ極メテ僅少ニシテ細胞原形質ハえおじんニテ淡染シテ不明瞭ナリ。核ハ卵圓形或ハ長橢圓形ニシテくろまちゃんニ富ム。其配列ヨリシテ紡錘形肉腫ノ如シ、間質ニハ纖維狀物質アリえおじんニテ淡染シ、ウァンギーソン氏法ニテ黃色ヲ呈ス其他ウァンギーソン氏法及マロリー氏法結締組織染色ニヨリ間質ニハ僅ニ血管周圍ニ結締組織アルヲ見ルノミナリ。ワイゲルト氏ぐりあ染色法ニヨリ間質ハ主トシテぐりあ纖維ヨリ成ルヲ知ル。

尙注意スベキハ腫瘍細胞ノ配列ガ所々ニろせてんヲ形成スル傾向アル事ナリ。

硬性部標本ヲ見ルニ細胞少ク、間質ハ多數ノぐりあ纖維錯綜セルヲ見、結締組織染色法ヲ施スニ結締組織維ハ殆ント無キヲ見ル。其狀ぐりあすくれろーせノ像ニシテ細胞ハ軟部腫瘍細胞ト同様ナリ。

其他種々ノ染色法ニヨリ所見中注意スベキハ、腫瘍中ニハ神經髓鞘殆ンド消失シ、脂肪染色ニヨリ腫瘍部ニ殆ンド脂肪物質ナキ爲ニ銳利ナル境界ヲナセル事ナリ。尙腫瘍ニ近接セル小腦實質中ニ砂粒ヲ認メラレタリ。

尙其發生部ヲ證セントシテ數百枚ノ連續切片ヲ製シ檢鏡セシモ遂ニ發生地ヲ證スルヲ得ザリキ。

### 三、考 案

(イ)本例腫瘍ノ診斷。肉眼上ノ所見、其發生部位及年齡等ヨリ見テぐりあおーむト考フベキ腫瘍ナレド組織の標本ヲ見ルニ及ビ腫瘍細胞ハ紡錘形ヲナシ、肉腫又ハ内被細胞腫ノ像ヲ呈シ、二者共ニ腦ニ發生シ得ベキ腫瘍ナルヲ以テ直チニぐりあおーむノ診斷ヲ下スニ躊躇スベキモノアリ。

間質ニ殆ンド結締組織ナク纖維狀間質ハぐりあ染色法ニヨリ初メテ染出セラレタル點ハ確カニぐり



剖檢記錄略記(大正十三年六月二日著者執力)。

死後十時間、屍剛強ク瞳孔散大シ左側ハ右側ヨリ大ナリ、顔面及頭部ニ高度ノ浮腫アリ。特ニ後頭部ニ烈シ。

頭部ハ肥大シ、頭圍五六糎、前後徑一九糎、左右徑一六・五糎アリ、後頭部ニハ左右相竝ビ二個ノ小痕アリ。其部ノ皮膚ハ血液浸潤シ皮膚ヲ剝離スルニ穿骨部ヨリ軟化セル腦細片露出セリ。頭蓋ヲ開クニ頭蓋骨ハ極メテ薄ク、縫合ハ大部分離開シ、腦膜ハ總テ浮腫強シ大腦ヲ觸ル、ニ波動ヲ呈シ、腦底漏斗部ハ囊狀ニ膨滿シ腦摘出ニ際シ此ノ部ヨリ氣泡ヲ混合セル無色透明液多量ニ流出シ爲ニ腦頂部陷沒セリ。頭蓋底部ハ陷沒シ特ニどるこ鞍甚シク、視神經ハ扁平狀ニ壓迫セラレ腦下垂體ハ萎縮ヲ呈セリ。

腦ハ剖面ニ於テ側室ノ甚シキ擴張ヲ見。腦實質ハ爲ニ多少扁平狀ヲ呈セリ、後頭部ヨリノ穿孔ハ側室ニ達シ居レリ。

小腦ハ多少膨大シ下面ニ乳白色軟性腫瘍ノ一部現ハレ、第四腦室ハ擴張(特ニ左右ニ向ヒ)シ、其右側壁ヨリ腫瘍ハ室内ニ突出シ擴張セル第四腦室ノ右半ハ殆ント全部灰白色ノ腫瘍塊ヲ以テ充サレ、其

一部ハ腦橋及延髓中ニ侵入シ、小腦實質ニモ腫瘍ハ浸潤シ右側小腦核ハ一部消失スルニ至レリ。腫瘍ハ胡桃大ニシテ灰白色ヨリ褐黃色斑紋アル部アリ性軟ナリ、尙右側室壁ニ接スル部分ニ淡褐色ヲ呈シ徑凡一糎大ノ硬性彈性部アリ。軟性部ト比較的銳利ナル境界ヲナセリ。

丙、顯微鏡の所見。

モノヲ組織的ニ檢シ、肉腫性ぐりおーむノ狀ヲ呈スル部分、ぐりおーせノ狀ヲ示ス部分、軟化竈及上皮ヲ有スル囊胞形成等種々ナル所見アルヲ報告セリ。

本例腫瘍ノ中心部ハぐりおすくれろーセノ狀ヲ呈シぐりおーむトノ關係ニ就テ興味アルモノニシテ特ニ Kimura 氏ノ例ノ如ク結節性腦硬化症トぐりおーむトノ關係ハ注目スベキモノナリ。曩ニ病理學集談會席上ニ於テ長與教授ヨリ注意アリシヲ以テ他ノ腦部ヲ詳細ニ檢セシモ結節性腦硬化症ニ來ル結節竈ヲ他ニ見出ス能ハザリキ。然レドモ本例ニ於テ種々ノ所見ヨリ硬性部(すくれろーセ)ハ舊キ病竈ナル事ハ確ナルモ、第四腦室ハ硬化竈ノ好發部位ナル點ヨリぐりおーむノ陳舊部ガすくれろーセニ變化セルカハ直チニ之ヲ決定シ得ズ。

尙<sup>(註)</sup>Scholz 氏ハ毒素性及傳染性疾患ニ續發シテ腦部ぐりお増殖アルヲ記載シ其後傳染病特ニちふスノ後ニ<sup>(註)</sup>結節性腦硬化症乃至腦ノぐりおーせ發生ヲ見ルハ一般ニ知ラレタルモノニシテぐりおーせニぐりおーむトハ全ク意味ヲ異ニスレドモ本例ノ病歴ヲ見ルニ臨牀上ノ發病凡、一ヶ年前ニ腸ちふスニ罹リシ事實ハ何等カ此ノ腫瘍發生ニ關係アルヤヲ疑ハシム

(ニ)本例腫瘍ニ續發セル變化ト臨牀上所見

腦内水腫。第四腦室部以下ニ於テ腦水導ノ交通障礙ヲ來セシ爲ニ大腦側室ヨリ第四腦室ニ内水腫ヲ惹起セリ。之ハ既ニ臨牀上齋藤博士ニヨリ確カメラレシモノニシテ第四腦室腫瘍ノ大半ハ腦内水腫ヲ伴フモノナリ。本例腦室壁ハ平滑ニシテ炎症ヲ認メズ單ニ擴張ヲ示セルヲ見ル。水腫ノ爲ニ腦ハ萎縮シ屢々精神症狀ヲ呈スルハ Gimbal 氏ノ表ニ於テ見ラル、所ナルモ本例ニ於テハ其症狀明瞭ナラズ。

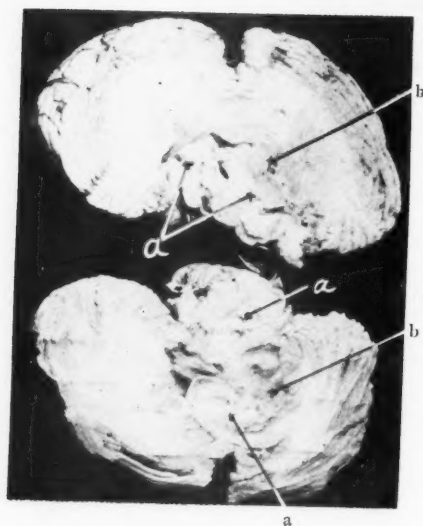
おーむナル事ヲ證スルモノニシテ、其細胞ニ富ミ、浸潤性發育ヲナセルハ惡性ヲ示スモノナリ、即ぐりおさるこーむ或ハぐりおぶらすてい<sup>ス</sup>ずるこーむ (Glioplastisches Sarcom) (a. Ribbert) ト稱スベキモノナリ。

(ロ) 本例腫瘍ノ發生母地。本例腫瘍ハ文獻ニ見ラレタル第四腦室腫瘍例中大ナルモノニ屬シ、從ツテ發生部位ハ探索ニ困難ニシテ多數ノ連續切片ニヨリシモ直接證明シ得ザリキ。

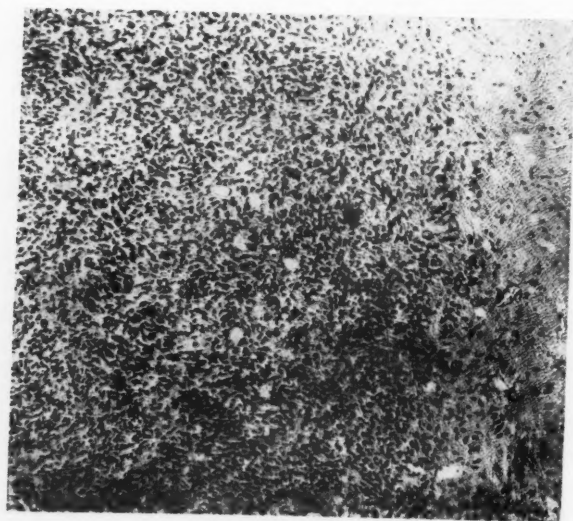
腫瘍ハ第四腦室右側壁ヨリ半島狀ヲナシテ室中ニ突出シ一部ハ小腦及延髓中ニ侵入シ右側室壁ガ總テノ中心ト思ハル、點ハ少クモ此ノ近邊ヨリ發生セルヲ想像セシメラル。多クノぐりおーむガ圓形及多角形細胞ヨリナルニ反シ本例ハ紡錘形細胞ぐりおーむナリ、<sup>⑤</sup>Vesprerni 氏ハ紡錘形肉腫樣ぐりおーむノ三例中一例ハ右側腦側室壁ヨリ發生セルヲ證シ、<sup>⑥</sup>Hildebrandt 氏ハ紡錘形細胞ぐりおーむヲ詳細ニ檢索シ、第四腦室えべん<sup>⑦</sup>でうむ細胞ヨリ發生セルヲ確メタリ。尙るせ<sup>⑧</sup>てん形成ハえべんぢめ<sup>⑨</sup>れすぐりおーむニ屢々見ラルモノニシテ本例ハるせ<sup>⑧</sup>てん形成ノ傾向ヲ示シ紡錘形細胞ヨリナルぐりおーむニシテ恐クハ第四腦室えべん<sup>⑦</sup>でうむ性ぐりおーむナリ。

(ハ) ぐりおーむトぐりおすくれろーせ。<sup>⑩</sup>Casirer und Lewy 氏ハ三十歳ノ女屍ニテ腦ぐりおーむノ中央部ガ硬ク纖維ニ富ミ、其周圍ハ軟ク細胞ニ富メル例ヲ報告シ、<sup>⑪</sup>Kimura 氏ハ一歳ノ女屍、右側大腦前葉ノ瀰漫性ぐりおーむニ指頭大ぐりおすくれろーせヲ伴ヘル例ヲ記シ其所見ヨリ結節性腦硬化症トぐりおーむトガ關係の連鎖アルヲ見出シ、<sup>⑫</sup>Riedel 氏ハ五十二歳ノ女屍、脊髓空洞症ニ於テ脊髓ぐりおーむ中ニ硬軟二竈アルヲ記載シ、<sup>⑬</sup>Henneberg 氏ハ大腦前葉ノ瀰漫性腫瘍ニシテ側室内ニ發育セシ

第一圖



第二圖



壓迫症狀。一般浮腫狀態、頭痛、嘔吐、視神經壓迫症狀ハ第四腦室腫瘍ノ診斷上重要ノ點ニシテ本例ニ於テモ總テ、本症狀ヲ備ヘ視神經ハ扁平ニ壓迫セラレタルヲ見尙さるこ鞍ノ壓迫モ生前X線ニテ證セラレタル如ク高度ノ陷沒ヲ示セリ。

腫瘍侵入部ヨリ來ル症狀。本例ニ於テハ小腦ノ一部延髓、腦橋等重要ナル機關ニ腫瘍浸潤ヲ示セルヲ以テ、從テ臨牀上運動失調、眩暈等アリ末期ニ於テハシャイチⅡストークノ症狀及にすたぐむす等ノ眼球症狀ヲ表ハセルハ第四腦室腫瘍ノ定型的ノ症狀ヲ呈セル一例ナリ。

#### 四、結 論

一、本例ハ十五歳ノ女子ニシテ、第四腦室ノ恐クハ其壁えべんぢうむヨリ發生セル紡錘形細胞ぐりおさるこーむノ一例ナリ。

二、組織的ニハ本例腫瘍ハ硬性ニシテぐりあ纖維ニ富ム所謂ぐりおすくれろーせノ像ヲ中心トシテ、軟性ニシテ細胞ニ富ミ浸潤性發育ヲナス惡性ノ部ヨリナル。

終リニ臨ミ御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜リタル長與教授竝ニ病歷ヲ貸與セラレタル近藤外科醫局員諸氏ニ感謝ノ意ヲ表ス。

#### 主ナル文獻

- 1) Kaufmann, Sp. Path. Anatomie. II. Bd. 2) Aschoff, Path. Anatomie. Sp. Teil. 3) Muthmann u. Sauerbeck, Über eine Gliageschwulst des IV. Ventrikels Z. B. 34 S. 447. 4) Cimbal, Beiträge z. Lehre von den Geschwülsten im IV. Ventrikel. V. A. 166. (1901). S. 289-. 5) Ribbert, Bösartige Geschwulst. 6) 長與, 臨牀醫學. 第 卷. 7) Vesperini, Beiträge z. Histologie d. Gliome V. A. 213. S. 543. 8) Hildebrandt, Zur Kenntnis der gliomatösen Neubildungen des Gehirns mit besond.

Berücksichtigung des ependymären Glioms. V. A. 186. S. 341. 9) **Ribbert**, Über das Spongioblastom und das Gliom V. A. 228. S. 195. 10) **Link**, Zur Kenntnis der ependymären Gliome des IV. Ventrikels Z. B. 33. (1902), S. 98. 11) **Saxer**, Ependym-epithel, gliome und epitheliale Geschwülste des Centralnervensystems, Z. B. 32. (1902). 12) **Cassirer und Lewy**, Die Formen der Gliomatose und ihre Stellung zur diffusen Hirnsklerose, Zeitschr. f. d. ges. Neurol. u. Psychiat. 81. (1923). II. 8/4. 13) **Kimura**, Über die größeren Zellen in verschiedenen Gliomen u. s. w. Centralblatt. 32. S. 681. 14) **Riedel**, Über einen Fall von gleichzeitigem Vorkommen von harter und weicher Gliombildung im Rückenmark mit Syringomyelie Centralblatt. 30. S. 156. 15) **Henneberg**, Über Gliome und Gliose, Neurologische Centralblatt. 16. (1894) S. 513. 16) **Scholz**, Über herdformige, protoplasmatische Gliawucherung von syncytialen character Centralblatt 33. S. 247.

## 附圖説明

### 第一圖 小腦第四腦室腫瘍。

a、軟クシテ細胞ニ富ム部。

b、硬クシテぐりや纖維ニ富ム部。

### 第二圖 同上軟性部組織像(紡錘形細胞ぐりおーむ)。



魚類腫瘍ノ轉移形成ハ、極メテ稀有 (Pick, Schimey) ニシテ、之ガ形成ヲ見タルハ、未ダ僅ニ數例 (Schröder, Schanberg and Lucke) ニ過ギズ。

本邦ニ於テハ、余ガ以下記述セントスル諸例ニ遭遇セル當時ハ、獨リ向山氏<sup>(8)</sup>ノ金魚纖維性上皮腫ノ一例、報ゼラレタルノミナリキ。最近ニ至リテモ、猶ホ和合<sup>(10)</sup>(金魚纖維形成粘液腫)・風間<sup>(9)</sup>(鮭肉腫・比目魚脂肪腫・鯛骨腫)・高橋<sup>(11)</sup>(鰻紡錘狀細胞性粘液肉腫・鯛及鰻ノ骨腫)ノ諸氏ノ報告ヲ加ヘシニ過ギズ。余ハ偶々、金魚ニ腫瘍狀新生物ノ發生セルモノ數例ヲ獲タレバ、茲ニ略報スベシ。

實驗例一。

金魚 (*Carassius auratus*) 多發性皮膚纖維腫。

體長一・八浬・體重一一三瓦、十。

此金魚ハせめんニテ塗ラレシ約一坪ノ池中ニ棲息セルモノナリ。同一池中ニハ是ニ類似セル新生物ヲ有スル魚ヲ認メズ本金魚ノ體表、殊ニ主トシテ胸部、其ノ他尾部・頭部・尾鰭等殆、體表全般ニ互リ、粟粒大ヨリ鳩卵大迄ノ小隆起又ハ半球狀乃至圓息肉狀ヲ呈スル腫瘤散在ス。新生物ノ外面ハ平滑ニシテ、色ハ概テ帶赤淡黃灰白色ヲ呈シ、硬度ハ略々一樣ニシテ、彈力性韌ナリ。ソノ細小ナルモノハ鱗ヲ覆レドモ、多クハ緊張セル上皮ヲ以テ覆ハレタリ。新生物バ周圍ト比較的明ニ界セラレ、其ノ基底ハ強ク固定ス。剖面ノ色ハ外表ノソレト等シク、束條性ヲ示シ、既ニ、肉眼的ニ、纖維腫ヲ思ハシム可キ性狀ヲ呈ス。内部諸臟器ニ於テ、肉眼的竝ビニ鏡檢的ニ腫瘍轉移ナシ。

●鏡檢所見 ●新生物ハ主トシテ幼若ナル結締織ヨリ成リ、其纖維束ハ種々ナル方向ニ、或ハ密ニ、或ハ粗ニ、相錯綜走行ス(腫瘍中心部ハ錯走スルコト著シク、周圍部ハ比較的規則正シク層狀ニ排列ス)。腫瘍細胞ハ雜多ナレドモ、主トシテ紡錘形ナルモノ多ク、其他星芒形・橢圓形・圓形・不正多角形ノモノ混在ス。何處ニモ組織ノ壞死、又ハ是ニ傾クモ

○佐川・魚類腫瘍ニ關スル知見補遺



## 魚類腫瘍ニ關スル知見補遺(附圖第二表)

京都帝國大學醫學部病理學教室

佐川 英二

較近比較腫瘍學の研究ノ隆盛ヲ來シ、腫瘍病理學開拓ニ與リテ力アルモノナガラ、主トシテ、是ハ溫血動物腫瘍ニ關スルコトニシテ、冷血動物腫瘍ハ、比較的最近時迄、概シテ稀有ナルモノトセラレタリ。

一八七五年 Buignon 氏<sup>(2)</sup>ガ、うぐひ (Illitze) ノ巨大細胞肉腫ヲ報告シタルガ、是冷血動物腫瘍報告ノ嚆矢ナリトス。爾來、屢々冷血動物殊ニ魚類腫瘍乃至腫瘍狀新生物發見セラレタリ。曾テ Schney 氏<sup>(3)</sup>(一九一一)ハ文獻ニ據リテ五十九例ノ魚類腫瘍ヲ蒐集シ、Folger 氏<sup>(4)</sup>(一九一七)ノ動物腫瘍ニ關スル總說ト共ニ、蓋最近ニ於ル Schanberg and Lucke<sup>(5)</sup>Bergman<sup>(6)</sup>氏等ノ報告例ヲ除ク他、從來發見セラレシ魚類腫瘍ヲ網羅セリ。

斯クシテ發見セラレシ魚類腫瘍ハ、多種多樣ニシテ、溫血動物ノソレト異ル所ナシ。即纖維腫、脂肪腫・sarcoma<sup>(7)</sup>・軟骨腫・骨腫・血管腫・內被細胞腫・めらのゝむ・筋腫・肉腫・乳嘴腫・上皮細胞腫・腺腫・囊腫・癌腫等各種良性惡性腫瘍及ビ種々ナル組織ヨリナル混合腫瘍ナリ。身體ノ各部ヲ通ジテ或ハ單發シ、或ハ多發ス。後者ノ場合、一組織ノコト多ク、稀ニハ組織ヲ異ニスル腫瘍、同一個體ニ重複シテ發生ス(Birth)<sup>(8)</sup>。而シテ之等腫瘍ノ組織的所見ハ、溫血動物ノソレニ比シテ類似ノ造構ヲ示セリ。

染色法ヲ試ミ、一方肉眼のニ精細ニ検査シタルガ、何等斯ルモノ、存在ヲ認メ得ザリキ。本腫瘍ノ發生原因ハ從ツテ不明ニ屬ス可キモノナレドモ、余ハ此處ニ、人體多發性皮膚纖維腫ノ多クノ場合ノ如ク、素因の關係ノ重要ナルモノナルヲ憶測ス。

### 實驗例二。

金魚 (*Carassius auratus*) 乳嘴狀上皮細胞腫。

體長一二裡・體重五〇瓦・♂。

左右兩胸鰭前緣中央部ニ於テ各一ヶ(左大豆大・右小豆大)、主トシテ鰭ノ上面ニ膨隆スル、疣狀ノ新生物アリ。底部ハ固定セラレ、硬度硬ク、其表面極メテ粗糙ニシテ、色ハ淡紅白ナリ。剖面ノ色表面ト等シク數條ノ鰭條 *Flossenstrahlen* 此ノ中ヲ走ル。

### 鏡檢所見

一見シテ著明ナル上皮組織ノ増殖ヲ認ム可シ。結締組織ハ、不規則ニ表面ニ增生突出シ、コレガ分歧シテ樹枝狀ヲ呈スルモノアリ、コノ結締纖維條ヲ中軸トシテ、強ク肥厚増殖セル上皮ヲ被レリ。此ノ上皮細胞ノ間質結締組織ニ近キモノハ、圓柱狀ヲ呈シ、其ノ排列比較的規則正シク、漸次上表ニ向ヒテ骰子形トナリ、最表層ニ於テハ扁平ニ近シ。而シテ是等上皮細胞ノ相密集セル部ニ於テハ、相互ニ相壓迫シ、種々ナル不正形ヲ呈ス。概シテ上皮細胞ノ排列ハ、深層ニ於テ密ニシテ、上表ニ於テハ粗ナリ。上皮細胞ノ大サモ亦多樣ニシテ、細胞各個ノ境界ハ明瞭ナルコト多シ。尙又上皮組織ノ最表層ハ、稀ニ可成リ深部ニ至ル迄角化狀ヲ呈ス。鰭ニ對シテ水平ニ截斷セル切片ヲ製作シテ觀レバ、結締織間質ニヨリテ不規則且、粗大ナル網眼ヲ形成シ、コノ網眼中ニ増殖セル上皮ヲ充填シ、其ノ中央角化狀ヲ呈ス。斯カル腫瘍細胞ノ核ハ、比較的くろまちゃん質ニ乏シク、大サ形態略細胞自己ノソレト相一致セリ。核分割像認メ難シ。而シテ、腫瘍組織ノ周圍へ浸潤性ニ發育シ行クガ如キ狀認メラレズ。

○佐川・魚類腫瘍ニ關スル知見補遺

ノ無シ。核分割像認メラレズ、腫瘍組織ハワン、ギーソン氏染色法ニヨリテ、結締織ニ對スル特殊ノ反應ヲ示サズ。唯纖維束間ニ於テ不規則ニ、極メテ少許纖維ナル纖維ノ紅染スルヲ觀ルノミナリ。腫瘍組織内ニ於ル血管及ビ淋巴管ニ著變ナク、圓形細胞ノ浸潤ハ、腫瘍周邊部竝ビ比較的大ナル血管周圍ニ輕度ナレドモ是ヲ認ム。

其ノ他余ハ腫瘍組織中ニ、二種ノ特異ナル細胞ヲ認メタリ。孰レモ組織球乃至組織球性細胞ト觀ル可キモノニシテ、其ノ一ハ暗褐色ノ略々同大ナル色素顆粒ヲ攝リ、是レ多キモノハ肉眼的ニ既ニ淡褐色ヲ帶ビタレド、多クハ鏡檢的ニ是ヲ認メシムルニ過ギズ。他ノ一ハずだん■ニ赤染スル大小不同ノ脂肪顆粒ヲ有スル細胞ニシテ、所々ニ散見ス。又屢々色素顆粒ト脂肪顆粒トヲ混有スルモノモアリ。

特ニ注意ス可キハ、新生物組織中ニ有髓神經纖維ノ證明セラレシコトアリ。是ハ、腫瘍周圍ノ皮下結締織内ニ現ハルルコト多ク、腫瘍組織内ニテモ索繩ヲ成セルモノ、或ハ斷片のナルモノ散在シ、拾モ散種セルガ如キ觀ヲ呈ス。是等腫瘍組織ヲ覆フ上皮組織ハ略々正常ニシテ、特ニ増殖肥厚ヲ示スコト無シ。

●考按 數ヶ月ニ亙ル觀察經過ニ於テ、新生物ノ増大認メ難カリシガ、上述所見ヲ考察スルニ、本新生物ハ眞性腫瘍ニシテ、人體ニ見ル多發性皮膚纖維腫ニ相當ス可ク、魚類纖維腫ノ今日迄報告セラレシモノ、中、多發性皮膚纖維腫ハ、未ダ有之ヲ知ラズ。正ニ本例ヲ以テ嚆矢トナス可シ。

腫瘍組織中ニ現ハレシ色素顆粒ヲ有スル細胞ハ、皮膚色素細胞ノ腫瘍發生ノタメニ破壊セラレタルヲ、組織球乃至組織球性細胞ノ攝取セルモノナル可ク、人體多發性皮膚纖維腫ノ場合ニ於ル皮膚色素沈著トハ異ルモノナリ。

斯ノ如キ魚類腫瘍ノ發生原因ニ就テハ、種々ナル學說アレドモ、諸種細菌原蟲類感染トノ間ニ、密接關係アリト信ゼラレシコト甚屢々ナリ。余ハ組織學的ニ、新生物竝ビニ内部諸臟器ニ尋常細菌原蟲

アリト思惟ス。又此ノ腫瘍發生ガ、諸種細菌原蟲類感染ニ關スルモノナリトハ屢々稱ヘラレタル所ナルモ、此ノ兩例共ニ新生物其他諸内臟器内ニ、肉眼的ニモ、鏡檢的ニモ、尋常細菌原蟲類ヲ證明シ得ザリキ。意味アルハ此ノ兩例ガ、共ニ、兩側胸鰭ニ限リテ新生物ヲ有セシコトナリ。曾テ Fiediger 氏ハ、同一池中ニ棲息セル細鱗鯉 (Schleien) 兩尾ノ共ニ口角ニ於テ上皮細胞腫ノ發生セルモノヲ報ジ、此ノ兩例ガ同一母系ニシテ、腫瘍發生ニ關シテモ、共ニ、同一素因ヲ獲得シタルモノナル可シト云ヘリ。而シテ余ノ場合ニ於テモ、該胸鰭ノ位置の關係ヨリシテ、此處ガ種々ナル刺戟ニ遇ヒ易キコトハ考ヘ得レド尙 Fiediger 氏ノ所說ノ如キハ大ニ參考ト成ス可キモノナリト信ズ。

實驗例四。 鯛 (Pagrus) 骨腫。

實驗例五。 鯛 (Pagrus) 骨腫。

鯛骨腫ハ決シテ稀有ナルモノニ非ザルモ、近者余モ亦二例ヲ獲タレバ、簡單ニ附記ス。

兩例共ニ、相隣レル兩個ノ尾椎骨膜側棘狀突起ノ中央ニ於テ、各一ケ大豆大、橢圓乃至紡錘形ナル硬キ骨ノ腫瘤ヲ存ス。其表面ハ全ク平滑、淡灰白色ヲ呈ス。腫瘤ト椎骨體トノ間ニハ特別ノ關係ナシ。其他何處ノ骨ニモ著變無シ。鏡檢的ニハ、兩例共ニ海綿狀周圍性骨腫トシテ認ム可キモノナリキ。

### 梗概及ビ結論

- 一、第一例ハ金魚ノ體表全般ニ互リテ發生セル多發性皮膚纖維腫ナリ。
- 二、第二第三例ハ共ニ、金魚ノ兩側鰭根部ニ生ゼル乳嚢性上皮細胞腫ナリ。
- 三、第四第五ノ兩例ハ、鯛ノ尾椎骨膜側棘狀突起ニ發生セル新生物ニシテ、鏡檢的ニハ、周圍性海

山來、魚類上皮組織中ニハ、二ツノ固有細胞ヲ觀ル可シ。即チ、所謂粘液細胞(Schleimzellen)ト棍棒狀細胞(Kolbenzellen)トナリ。而シテ本例新生物ニハ是ヲ認メズ。

其他、結締織内ニハ血管ノ存在スルコト少カラズ。腫瘍組織全般ニ互リ屢々輕度瀰蔓性ニ圓形細胞浸潤ス。

### 實驗例三

金魚(Carassius auratus)乳嘴狀上皮細胞腫。

體長一一糎・體重五三瓦・♂。

兩側胸鰭前緣根部ニ接シ、鰭ノ上面へ隆起スル小豆大ノ新生物各一ヶ宛ヲ認ム。該新生物ハ、其性狀、略々第二例ノモノニ相等シ。而シテ其組織的所見モ亦前例ニ變ハラザレバ此處ニハ是ガ記載ヲ省略ス。

考按、第二例第三例ノ新生物ハ、其組織的造構ニ據リ乳嘴狀上皮細胞腫トシテ認ム可キモノナリ。

此ノ兩例ハ、共ニ井戸端ノせめんどニテ塗ラレシ泉水中ニ棲息シタルモノニシテ、前者ハ約一ヶ年、後者ハ一ヶ年半ニ互ル觀察經過ニ於テ、發見當時ト變ルコト少ク、只大サニ於テ僅ニ増大セルヤノ感アルノミナリ。此事ハ新生物ノ組織像ト相一致シ、該新生物ノ良性ナルコトヲ思ハシムルニ足ル。

由來、魚類上皮組織ニハ通例角化ヲ缺クモノナリ(Hertwig)<sup>(6)</sup>。而カモ實驗例二・三兩例共ニ新生物ノ表層部位ニ於テ、比較的強キ角化狀ヲ呈セシハ、稍々興趣アルコトナリ。

魚類上皮細胞腫發生原因ニ就キテハ、先ヅ Mehn 女史ノ唱道セルガ如ク、腫瘍發生ガ所謂 Pocken-erkrankung ニ因ル皮膚肥厚ナリトノ說ヲ參考トナス可キモ、余ハ Friedländer 氏ト共ニ、魚類上皮細胞腫ト、從來記載セラレシ所謂 Pockenerkrankung トノ間ニハ、其組織學的所見ヨリシテ相異リタルモノ

第一圖



第二圖



綿狀骨腫トシテ認ム可キモノナリ。

四、第一例五ヶ月、第二例一ヶ年、第三例一ヶ年半ニ互ル觀察經過ニ於テ、是等新生物ノ増大ヲ認メズ。其ノ他ニモ、著明ナル變化無シ。

五、是等腫瘍發生ノ原因關係トシテ、尋常細菌原蟲類感染ニ因ラザルコトハ明ナリ。第二第三例ニ於テハ、新生物ノ發生セル該胸鰭ハ、位置的關係ヨリシテ、此處ガ種々ナル刺戟ニ遇ヒ易キコトハ考ヘ得ラルレド、余ハ他ノ諸例ト共ニ、素因的關係ノ重要ナルヲ臆測ス。(一二、三脱稿)

(附記)本篇六、始メ多數ノ附圖ヲ附シアリシモ教室ノ火災ノタメ焼失シ、茲ニ掲グルコトヲ得ザルハ遺憾ナリ。

# 引用書目

- 1) **Beatti, M.**, Geschwülste bei Tieren. Zeitschr. f. Krebsforschung, Bd. 15, S. 461. 1916. 2) **Bergman, Arvid M.**, Einige Geschwülste bei Fischen: Rhakomyom, Lipome und Melanome. Zeitschr. f. Krebsforschung Bd. 18, S. 292. 1922. 3) **Bugnion**, Deutsche Zeitschr. f. Tiermed. und vergl. Pathol. Bd. 1, S. 132. 1875. **Plehn**, (10) = 據ル. 4) **Fiebiger, J.**, Über Hautgeschwülste bei Fischen, nebst Bemerkungen über die Pockkrankheit der Karpfen. Zeitschr. f. Krebsforschung Bd. 7, S. 165. 1909. 5) **Folger, A. F.**, Geschwülste bei Tieren. Ergebn. der allg. Pathol. und pathol. Anat. des Mensch. und der Tiere. (Jahresch). XVIII. Jahrg. II, S. 372. 1917. 6) **Hertwig, R.**, Lehrbuch der Zoologie. Jena. 13. Aufl., S. 558. 1922. 7) **風間美彌**, 鯉ノ肉腫ニ就テ. 第六年, 第一册, S. 31. 8) **向山孝之**, 金魚ノ一新腫瘍ニ就テ. 日本病理學會雜誌. 第七卷, S. 827. 大正七年. 9) **Pick, L.**, Der Schilddrüsenkreuz der Salmoniden (Ederfische). Ein Beitrag zur vergleichende Pathologie des Carcinoms. Berl. Klin. Wochenschr. No. 46-49. 1905. 10) **Plehn, M.**, Über Geschwülste bei Kalbblutern. Zeitschr. f. Krebsforschung, Bd. 4, S. 525. 1906. 11) **Schamberg, J. F., and Lueke, B.**, Fibrosarcoma of the skin in a goldfish. The Journal of Cancer Research. Vol. VII, No. 2. April, 1922. 12) **Schney, M.**, Über Neubildungen bei Fischen. Frankfurt. Zeitschr. f. Pathol. Bd. 6, S. 230. 1911. 13) **Schreders,**

W., Geschwülste bei Fischen. Inaug.-Dissert. Petersburg 1907/8. Ref. nach Braunslein, Zeitschr. f. Krebsforschung. Bd. 8, S. 97. 1910. 14) 廣澤三, 魚類腫瘍ノ研究 (第一輯) 北越醫學會雜誌 第三十八年. 第一號. S. 101. 15) 和合平之助, 金魚ニ發生セル纖維成形粘液腫ノ一例. 帝. 第十六年. 第一冊. S. 28.

### 附圖説明

- 第一圖 第一例金魚ノ多發性皮膚纖維腫(擴大ライツ三—四)へまときしりん、えおじん。  
第二圖 第二例金魚乳嘴性上皮細胞腫(擴大ライツ三—四)へまときしりん、えおじん。





おんヲ含有スルモノヲ得タリ。然レドモソノ放射後巴里到著迄ニ三日ヲ要シタルヲ以テラじョーむ。えまなちおんヲ暗室ニ於テ檢スルニ尙ホ燐光ヲ放チ寫眞乾板ニ一分乃至五分ニシテ明瞭ナル暗影ヲ生ゼシメ得タリ、次ニ該血清ヲ夫ノ家兎ノ耳殼靜脈内ニ注射シ、一時間後ソノ反對側耳殼ニアル試験セントスル腫瘍ノ大サヲ計リ是レニX光線川コダック會社ふいるむヲ常ニ二枚ヅ、密ニ固定シ約四時間放置セリ。

#### 實驗結果

ふいるむヲ二枚ヅ、使用セルハ萬一ノ過失ヲ慮ツテナリ。次ニ該ふいるむヲ注意シテ現像セリ。

家兎第一號、九×十一ミリノ直徑ヲ有スル眞正癌ニ於テハソノ發育増大シツ、アル周邊部ノミニえまなちおん固著セルヲ認ムベク、ソノ部ノミふいるむニ暗影アリ、血管等ニ一致セル暗影ヲ認メズ家兎第五號、三・〇×三・二厘米ノ直徑ヲ有スル眞正癌ニ於テハソノ發育盛ナル周邊部ニ一致セル暗影ふいるむニ明瞭ナリ。ソノ耳殼反對面ニ浸潤増殖セル癌組織ニ於テ同面ニ當テタルふいるむニ於テソノ大サニ一對セル暗影ヲ得タリ。

以上家兎ハ十四ヶ月間既ニこゝるたゝる塗擦ヲ中止セルモノニシテ且ツ目下ソノ腫瘍増大シツ、アルモノナリ。

#### 結論

本實驗ニ於テ得タル成績次ノ如シ。

一、らじョーむ・えまなちおんヲ有スル血清ノ靜脈内注射ニヨリソノ注射後一定期間ハ癌組織ニ於テソノきョーりぐらふ陽性ナリ即チソノえまなちおんハ癌組織ニミ固著ス。良性腫瘍ニ於テハ Iijima-

〇市川・らじョーむヲ放射セル血清ノ靜脈内注射ニ由ル人工癌ノきョーりぐらふニ就テ

## らじゅうむヲ放射セル血清ノ靜脈内注射ニ由ル人

## 工癌ノきゅうりぐらふニ就テ

北海道帝國大學農學部比較病理學教室

獸醫學博士 市川 厚 一

Kotzareff 及 Weyl ガ千九百二十三年 (Presse medicale, No. 89) 人類腫瘍ニ就テらじゅうむヲ放射セル血清ノ靜脈内注射ニ由ルきゅうりぐらふニ就テ發表以來何等斯界ニ反響ナカリキ。然レドモ果シテ氏等ノ主張スルガ如クンパンハ甚ダ興味アル事ナリ。即チ第一ニらじゅうむえまなちおんガ有スル血清ノ靜脈内注射ニ因リソノ遠隔セルト否トヲ問ハズ腫瘍組織ニノミ該えまなちおんガ固著スル事。第二ニ第一ノ結果トシテ該腫瘍組織ヲ破壊スル事ナリ。余ハ幸ヒ Kotzareff 氏ヲ知ルノ機會ヲ得氏ノ援助ノ下ニ本研究ヲ家兎實驗癌ニ就テ復試シ甚ダ興味アル所見ヲ得タリ。余ハ今札幌ニ於テ本研究續行困難ナルノ故ヲ以テ特ニ茲ニ之レヲ報告シ一般關係諸氏ノ興味ヲ喚起シ、此方面ノ開拓ヲ切望スル者ナリ。殊ニ深部就中内臟腫瘍ノ診斷ニ或ハ更ニソノ治療ニモ利用スルノ時機アルベキヲ信ズレバナリ。

## 實驗方法

本研究ハ佛國巴里ニ於テ行ヒタルモノナリ、先ヅ余ハ第一、五及九號家兎ヨリ無菌的ニ血清約三ミヲ採リ是ヲ試驗管ニ入レ密封シ直チニジュネバ市瑞西らじゅうむ研究所長 Wassmer 氏ニ送り之ニらじゅうむノ放射ヲ乞ヒタリ、而シテ第一號ニハ二三みりきゅうりー第五號ニハ二〇みりきゅうりー第九號ニハ一五みりきゅうりーらじゅうむえまなち

第一圖

ヲ清血兎家ルス有ヲ「リユキリミ」五十「ンオチナマエム」ユジラ  
像ルタキオ間分三ハ側左間分一ハ側右ニ上板乾通普



第二圖

靜殺耳兎家一同ヲ清血兎家ルス有ヲ「ンオチナマエム」ユジラ「上同  
人ルレ作ニ側對反ノソ間時三リヨ目間時一後其シ射注ヲ耗三ニ内脈  
像ルタ得テシ定固ヲ「ムルイフ」用「ム」ユジラ「ニ上ノ痛」ルタ「工  
(リタケサヲ事ル誤シ用使、ヅ枚ニニ常ハ「ムルイフ」)



chondrom 及ビ Papillom ノミナルガきゅーりぐらふハ陰性即ソノえまなちおんハ該組織ニ固著セズ、  
二、らじゅーむ、えまなちおんヲ有スル血液ノ靜脈内注射後動物自己ニ對シテハ何等影響ヲ認メズ、  
即チ無害ト見テ可ナリ。

三、上述血清ヲ一回注射セルノミニテハ癌組織ニ對シテハ Notzari 氏等ノ主張ノ如クソノ破壊作用ヲ認メズ。

以上ノ成績ハ Notzari 氏等ノ成績ニ一致ス、甚ダ興味アルコトハ斯クシテ惡性腫瘍ノ又ソノ轉移ノ存在ヲ手術ニ由ラズシテ診斷シ得ラル、事ナリ(但シ未ダ嘗テ著者及ビ Notzari 氏等モ肉芽腫瘍ニ就テハ本實驗ヲ行ヒタル事ナキヲ以テソノ方面ノ追究ヲ希望ス)更ラニ興味アルハらじゅーむ、えまなちおんガ持續的ニ作用スルコトニ由リ深部惡性腫瘍ニ對シテ少クモらじゅーむ、えまなちおんヲ表在セル腫瘍ニ適用セルト同一ノ效果アルベキヲ以テ一般ノ工夫ニ由リテソノ治療ノ方面ニモ應用ノ可能ナル事ナリ。

## 抄 録

### 白鼠及まうすニ於テ一定ノ制限食餌

#### カ腫瘍ノ移植及發育ニ及ホス影響

K. Sugimura & S. R. Benedict, The influence

of certain limited diets upon Tumor susceptibility and growth in albino rats and mice. The Journal of Cancer Research, Vol. IX, No. 2.

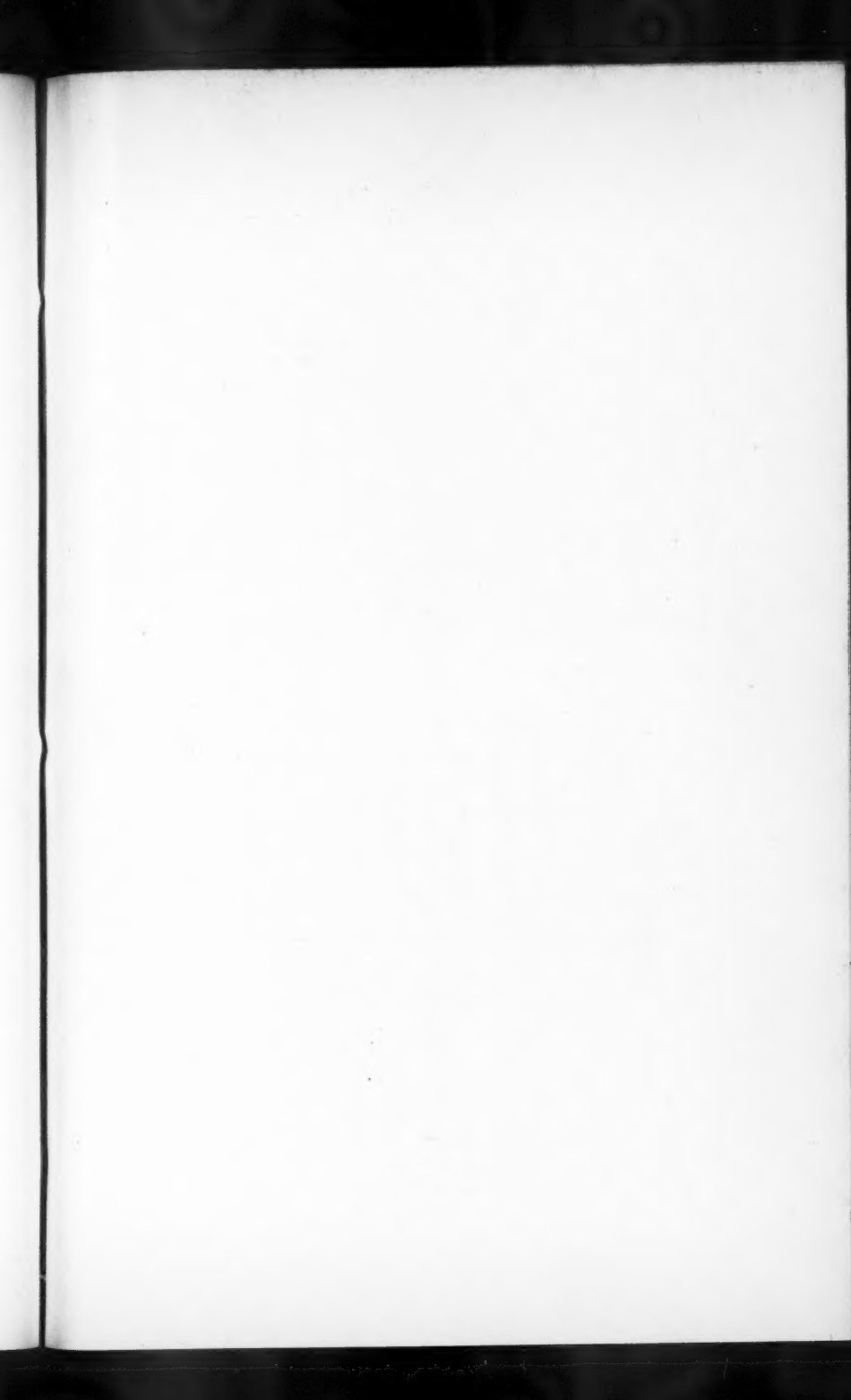
從來腫瘍患者ト食餌トノ關係ヲ報ゼル者、例ヘバびたみんB缺乏食餌ヲ以テ癌腫患者ヲ養フ者、其宿主ヲ饑エシメズシテ癌ノミヲ饑エシムルヲ得ズ、又びたみんA缺乏食ヲ癌患者ニ與ヘタルモ癌腫ノ發育、潰瘍形成及惡液質ニ陷ル事ニハ關係ナカリシト云フ。然レドモ未ダ實驗的ニ一定ノ制限食餌ト腫瘍ノ移植及發育トノ關係ヲ確メタルモノナク、著者ハ此關係ヲ明カニセントシフレキシナル氏鼠癌及バシホルド氏まうす癌ヲ用ヒ一定ノ制限食餌ヲ以テ實

驗セル結果次ノ如シ。

肉類、牛乳、植物性ぶろていんヲ含有スル食物及人工的ぶろていん缺乏食ヲ以テ飼養セル兩動物ニ於テ夫々各癌腫ノ通常移植率ニハ變化ナク。癌腫ノ發育上ニハ食物中ニ動物或ハ植物性ぶろていん八%以上アレバ何等ノ影響ナシ。而シテ此ノぶろていん缺乏食ニ於テハ腫瘍ノ發育ハ著シク害セラレ、同時ニ宿主ニ於テモ營養障礙ヲ來ス。腫瘍細胞ノ惡性ノ程度モぶろていんニ富ム食物、缺乏セル食物及含水炭素ニ富ム食或ハ缺乏食ニヨリ影響サル、事ナシ。更ニ肝油、亞麻仁油等ノ油類ヲ加ヘタル食餌ニヨリ腫瘍ノ移植率及發育ニハ何等ノ變化ヲ見ズ(福田抄)

### エンセン氏鼠肉腫ノ退行現象

Wm. H. Woglom, Regression of the Jensen rat sarcoma. The Journal of Cancer Research, Vol. IX, No. 2.



實驗的胎生腫瘍ハ、まうす胎兒ノ年齡ヲ交接時ヨリ  
テ種々ノ時期ニ採取シ、之ヲ細片ニ刻ミ〇・七三%ノ消毒  
食鹽水ヲ加ヘ、種々ノ年齡ノまうす背部皮下ニ注入スル  
時ハ或條件ノ下ニ發生セシムルヲ得ベシ。即チ注入物が  
生存シ行クニハまうす胎兒ト其宿主トノ間ニ一定ノ年齡  
的關係アルモノナリ。年齡若キ胎兒ヨリ得タル材料ヲ以  
テスレバ同一宿主中ニ長ク生存シ。宿主ハ若キモノヨリ  
生殖成熟期ニ達セル者ノ方腫瘍ハ存在シ易シ。五十三日  
目ノまうすニ十二日半ノ胎兒一ケ五ノ二分細片ヲ注入セ  
ルモノニアリテハ數回妊娠セルニ拘ハラズ生涯ヲ通ジテ  
腫瘍ハ存在セルモノアリ。(福田抄)

### Jaekelニ於ケル腎臟癌腫

A. Plant, Cancer of the Kidney in a Jaekel The  
Journal of Cancer Research. Vol. IX. No. 2.

Jaekelノ腎臟ニ發生セル癌ハ文獻ニ於テ稀ニ見ラル、モ  
ノニシテ、本例ノ該癌腫ハ徑五厘球形ヲナシ硬ク一部ハ  
乳嚢性腺性癌ニシテ間質乏シク血管モ少シ。上皮細胞ハ  
小形ニシテ大サ一樣、原形質ハほもけん、核ハ圓乃至橢

圓ナリ。周邊腎組織ハ結締組織増殖ノ爲ニ壓排セラレタ  
ルモ炎症反應ヲ見ズ。(福田抄)

### 黑熊ノ幽門部滑平筋腫

Walsh, Leiomyoma of pylorus in a black bear  
The Journal of Cancer Research. Vol. IX. No. 2.

二歳ノ黑熊(Ursus americanus)ノ幽門部ニ發生セル腫瘍、球  
形ヲナシ爲ニ幽門部閉塞ヲ來シ饑餓狀態ニ死セルモノナ  
リ。組織的ニハ滑平筋腫ニシテ幽門部筋層ニ先天性肥厚  
アリシハ此ノ發生ニ關係アリシモノト認ム。(福田抄)

### 放射腫瘍組織ヲ以テシテハ免疫ハ 成立セス

No immunity produced by inoculating irradiated  
tumor tissue. Wood and Pridgen, Journal of Ca-  
ncer Research. Vol. 9. No. 3.

約六千ノ移植實驗及三萬ヲ越ユル對照移植ノ成績ヲ基礎  
トシ、著者ハコンタミン氏等ノ主張ニ反シ確實ナル反證ヲ  
舉ゲテ放射腫瘍組織ニヨリテハ免疫成立セズ又動物ハ該  
腫瘍ニ對シテ抵抗力ヲ増進スルコトモナキヲ證シ、コノ實



エンセン氏鼠肉腫ハ紡錘形細胞肉腫ニシテ移植率高キモ是ガ移植後數週ニシテ縮小消失スルハ屢々見ル所ナリ。是レ腫瘍ノ發育中ニ免疫起ルガ爲メナリト稱セラレ、尙此事實ハ Handal 氏等ノ實驗ニヨリ強メラレタリ。即チ氏ハ再移植ニ際シ一定ノ抵抗アル事ヲ實驗シ、此ハ抵抗ハ移植後凡八日ニシテ表ハレ來ルヲ以テ是以前ニ於テ移植腫瘍ハ自然ニ吸收サル、事ナシト稱セラル。著者ハエンセン氏移植肉腫ヲ或方法ニテ大サヲ計リ是ヲ曲線ニ表ハシ發育及退行ノ經過ヲ記載實驗シ、尙種々ノ時期ニ於テ組織的ニ研索セリ。

腫瘍ノ大サノ曲線ヲ見ルニ縮小スルモノニ於テハ凡十日ニシテ増殖性えねるぎヲ失フモノ、如ク、自然治癒ヲ來スハ肉腫ガ其宿主ニ生ゼシムル免疫性ニ依ルモノナリ。同時ニ一動物ノ兩側ニ移植セル該肉腫ハ共ニ同様ナル經過ヲ取り、共ニ發育スルカ、又ハ共ニ退消スベシ、此方法ニヨレバ腫瘍ノ萎縮ノ早期ノ像ヲ見ルニ便ナリ、斯クシテ組織的ニ退行現象ヲ見ル時ハ先ヅ腫瘍ノ週縁ヨリ退行變性ニ陥リ遂ニ壊死部ヲ生ジ二次的纖維化トナル、此ノ變

化ハ次第ニ腫瘍ノ内部ニ進ミ、纖維性結節ヲ作ルニ至ルモノナリ。(福田抄)

### 癌腫家族其後研究

A. S. Warhin, The further study of a cancer family. The Journal of Cancer Research, Vol. IX, No. 2.

癌腫ニテ死セル大祖父ヨリ出デタル一家族三代間ノ癌腫患者發生ニ就テハ既ニ報告セシガ其後ノ研究ニヨレバ子孫全部人員百四十六人中癌患者一九・一九%ニシテ成人八十八名ニ對スル癌發生率ハ實ニ三一・八一%ヲ示ス。尙癌發生上家族遺傳アル事明ニシテ、本家族ニ於テ男性ニ於テハ消化管系統、女性ニ於テハ生殖系統ニ現レタリ。平均年齡三七・九歳ニシテ其腺性癌ノ早ク進行スルハ注意スベキコトナリ。(福田抄)

### まっすニ於ケル實驗的胎生腫瘍研究

#### 上ノ注意

M. T. Butrows, A preliminary note on the study of experimental embryomata in mice, The Journal of Cancer Research, Vol. IX, No. 2.

號ヲ移植シ移植三週後移植陽性ナルモノヲ選ビテX光線放射ヲ施セル該肉腫乳劑〇・一五託ヲ皮下ニ注射セリ。(放射量ハ第一論文ニ記述シタリ)。

而シテ對照例ヲ置キ兩群動物ノ體重、腫瘍發育度、生存期間、腫瘍消滅ノ如何等ヲ比較觀察シタルガ兩群動物間ニ何等ノ相違ヲ證明スルヲ得ザリキ、然レドモ一方ニ放射腫瘍ニヨリテ免疫ノ成立ヲ證シタリトノ報告アルヲ以テナホ試験ヲ再復スル要アリ。(鈴木抄)

#### 惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ノ研究

##### 四、放射肉腫細胞ノ數同注射方同

##### 種移植腫瘍發育ニ及ス影響

Studies in biological resistance to malignant tumors

IV. The effect of multiple infections of irradiated sarcoma cells upon the growth of established homologous tumor grafts.

Samuel, Evans, and Krumphaw (Journal of Cancer Research, Vol. 9, No. 3)

〇抄 録

著者等ハ放射肉腫組織ノ一回注射ガ移植腫瘍發育ニ何カノ影響ナキヲ知リ數回注射ヲ行ハバ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ知ラントシテ本實驗ヲ施行シタリ即チ前回ト同様ノ方法ニヨリ放射肉腫乳劑ヲ一週間ノ間隔ヲ置キ三回注射シタルガ何等ノ影響ヲ認メザリキ、チエンバー及スコットハ抗原體ノ二作用即チ促進作用、及阻止作用ヲ主張スレドモコノ假定ハ尙研究スベキモノナリ、著者等ハチエンバー及スコット氏等ノ成績ト著者等ノ成績ノ相違ハ、エンゼン系肉腫ニアリテハ屢々腫瘍ノ消滅アルタメナルカ、又ハ著者等ノ實驗ニ於テハ實際ハ輕度ノ抵抗力増加ハ起ル可キモソハ吾人ノ證明シ得ザル程度ノモノナリシカ、或ハ兩原因ニヨルモノナルベシ。ト論ジタリ。

##### もろもろ心臓ニ發生セル肉腫

Sarcoma of the heart in a guinea pig

Bender (Journal of Cancer Research Vol. 9,

No. 3)

約四〇〇瓦ノ雄もろもろ心ノ左心室壁ニ發生セル白色ノ腫瘍ニシテ檢鏡スルニ淋巴肉腫ナリ、肝ノほたる靜脈

驗成績ヨリミレバ直チニ人間ニ就テコレヲ行フコトハ無益ナルノミナラズ却テ危險ニシテ且ツ科學的ニ不合理ナリト論ゼリ尙腫瘍トシテハ肉腫第百八十號「フレキシナ」ノ系らつゝ癌及らつゝ肉腫ヲ用ヒコレニX線ヲ放射セシナリ。(鈴木抄)

## 惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力

### ニ關スル研究

#### 一、肉腫(クロツカー系らつゝ)肉

#### 腫第十號ニ對スルらつゝ量

#### ノ測定

Studies in biological resistance to malignant tumors

I. The determination of the „Rad” dose of Ro-

nigen ray for sarcoma cells (Crocker rat sarcoma

No. 10) exposed in vitro. (Journal of Cancer Rese-

arch, Vol. 9, No. 3)

クロツカー系らつゝ肉腫第十號ノ移植ニ乃至五週後ノモノヲ剔出シソレニX光線放射ヲ行ヒらつゝ量ヲ測定シタリ、使用X線裝置ハ standard commercial “30 inch” machine

ナリ。ソノ結果ニヨレバ本腫瘍ニ對スル最小致死量ハすば一くぎあつゝ六吋或ハ八四きろわつゝ、四みりあんべあ、皮膚放射距離二六・五裡、濾過裝置ヲ用ヒズ、二四分間放射ニ相當ス、ソノらつゝ量ハエンゼン系らつゝ肉腫ニ對スルモノ、七五%ニ當ル。(註、らつゝ量トハチニンパー、スコット及ルス氏等ガエンゼン系らつゝ肉腫ノ移植ニ當リ移植肉腫ノ發育ヲ阻止スルニ足ルX線最小放射量ニ對スル名稱ナリ)。(鈴木抄)

## 惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ノ

### 研究

#### 三、放射肉腫細胞ノ一同注射ガ同

#### 種移腫瘍ノ發育ニ及ス影響

Studies in biological resistance to malignant tumors

III The effect of a single injection of irradiated

sarcoma cells upon the growth of established homo-

logous tumor grafts. Small, Evans and Krumphaur,

(Journal of Cancer Research, Vol. 9, No. 3)

ホ、同年同體重ノ幼若白鼠ヲ用ヒコレニらつゝ肉腫第十

氏ハ化學的副因子ノ消滅スルガ爲メナリトセリ。ソノ根據トスル所ハ次ノ如シ、ジャイ氏ハ鶏肉腫ノ一片ヲ砂ト共ニ細碎シ、ソノ五瓦ニ一〇〇銑ノ「リッゲル」液ヲ加ヘ、砂及ビ濾紙ニテ濾過シソノ澄明濾液一〇銑ヲ「ビベット」ニテ試験管底ニウツシ、ソレニ試験管壁ニ沿ヒテくろろろふおるむ二滴ヲ滴下ス。くろろろふおるむハ一部ハ液ノ表面ニ一部ハ管底ニ至ル。ソレヲ三十分間三七度孵卵器ニ放置ス、後ソレヲくろろろふおるむニテ飽和シ更ニ三時間三七度ニ放置ス、後くろろろふおるむヲ除去ス、くろろろふおるむニ代ユルニ食鹽水ヲ以テスル時ハコノ溶液ノ二銑ハ腫瘍形成力ヲ有スルモくろろろふおるむニテ處置セルモノハ一銑ヲ使用スルモ成績陰性ナリ、即チくろろろふおるむニヨリ溶液ノ傳染力短時間ニシテハ消滅ス、而シテコノ傳染力ハ適當ナル條件ノ下ニハ（特ニ空氣遮斷ノ下ニハ）七日間ハ保有セラレ即チ病原體ハ化學的因子ノ共在スル場合ニハジメテソノ力ヲ發揮スルモノナリ。二因子中ノ一因子ノミニテハ腫瘍形成ハ發現セザルナリ。

濾過性及ビ次デ化學的抽出法ヲ用ヒ得タル濾過液ヲ遠心

# ○抄 録

シ得ル上層及下層ニツイテスルニ上層ハ化學的副因子ヲ含ミ、下層ニハ病原體ヲ含有ス而シテジャイ氏ハコノ二層ノ注射ニヨリ十三例ニルース氏鶏肉腫ヲ發生セシメ得タリ、更ニジャイ氏ニテ病原體ヲ細菌學的方法ニテ培養シ得タリ、即チコレニヨリテミレバ恐クコノ病原體ハ増殖力アル微生物ナルベシ、今日迄哺乳動物ニ癌腫ニ就テハルース氏病原體ニ相當スルモノハ得ラレズ、ジャイ氏ハ實ニまうす肉腫ヨリモ遠心法ニヨリテ副因子ヲ分離シ得タリ。著者自分ハまうす腫瘍ヲ液體空氣ニテ凍結セシメ乳鉢ニテ細碎シ、コレヲ一週三回二ヶ月間皮内注射ヲ行ヒタルガ成績陰性ナリシハ、コノ際特殊因子ノ破壊セラレシタメナルベシトセリ。一例ニ於テジャイ氏ハ人類癌腫ヨリ病原體ヲ得タルコトヲ報告セリコノ際氏ハ當該病原體ナル「リス氏肉腫くろろろふおるむ濾液ト共ニ」鶏ニ注射シルース鶏肉腫ヲ發生セシメタリ。他ノ二例ノ人類腫瘍ニ於テハ有效成分ハ得ラレザリキ、恐ラクコレヲ腫瘍例ニ於テ病原體ハ同一ナルモ副因子ハ各腫瘍ニ特殊ナルモノナルベシ。而シテソノ特殊因子ハ今日迄ノ所ハ既存ノ腫瘍ヨリ分離シ

ニ小ナル腫瘍栓塞アリシ外内臓ニ略々淋巴腺ニ轉移竈ヲ見ズ、本例ハもるもつニ於テハ未ダ嘗ツテ記載セラレザルモノナルガ、マグナツソン氏ノ記載ニヨレバ動物心臓腫瘍ノ四分ノ一ハ淋巴肉腫ナルハ興味アルコトナリ。

(鈴木抄)

### 腫瘍組織ノいんしゅりん含有量

The insulin content of tumor tissue, Cori, Journal of Cancer Research, Vol. 9, No. 3.

著者ハ胸部癌腫、めらのざるこーま、子宮筋腫、及犬ノ淋巴肉腫ヨリドイシー、ソモヂイ、シャツフアー氏法ニヨリエキスミらくミヲ製シ二十四時間饑餓セシメシ廿日鼠ノ血糖ニ對スル作用ヲ檢シコレヲ腫瘍中ニハいんしゅりんノ痕跡ヲ證シ得ルノミナリ。ト(鈴木抄)

### 病原體ト癌腫

Leitch, Viruses and Cancer, Brit. med. Journ. No. 3369, 1925.

ジャイ氏研究材料ハルース氏鶏肉腫ナルガレイチユ氏ハルース氏鶏肉腫ハ眞ノ肉腫ト認ムベキヤ否ヤニ關シテ疑

問ヲ抱ケリ。ジャイ氏ハ該腫瘍ヨリ次ノ方法ニヨリテ腫瘍形成素ヲ製シタリ、即チ腫瘍組織ヲ殺菌砂ト共ニ細碎シ一〇〇珉ノリンゲル氏液ニ浮游セシメ砂及濾紙ニヨリテ粗大ナル夾雜物ヲ除キソノ濾液ヲ更ニシャンペラン濾過器ニテ濾過シ細胞成分ヲ除却シタリ、コノ濾液ノ〇・〇一珉ヲ鶏ニ注射スルモ陰性ナリ。〇・二五珉ヲ注射スレバ漸次ニ腫瘍ヲ發生シ、一珉ニテハ腫瘍形成ハ速カニ起ル、即チ腫瘍形成ニハ注射濾液ノ一定量ヲ必要トス、ジャイ氏ノ第二法ハ次ノ如クニシテ有效成分ヲ分離ス、即チ鶏肉腫ノ一片ヲ五珉ノハースレー氏ぶいよん及〇・二%ノ鹽化加里及一珉ノ新鮮家兔血清ヲ含有スル試驗管ニ入レ、コノ混合物ヲ空氣ヲ遮斷シ又ハ空氣ヲ通ジ孵卵器放置ス、使用シタル腫瘍、材料粗大ニシテ空氣ヲ遮斷シテ培養セシ場合即チ第一次培養七日間傳染力ヲ保有ス、然ラザル場合ニハ二日ニシテソノ力ヲ失フ。第一次培養ハ恐ラク病原體が腫瘍片ヨリ培養液中ニあうすじふんじーれんスルニ由リテ生ズルモノナリ。

第一次培養ハ二乃至七日ニテソノ傳染力ヲ失フハジャイ

# 寄附金名簿

年 月	金 額	姓 名	摘 要
明治四一、四	二〇〇、〇〇	福間 甲 松殿	四月ヨリ月割五拾圓宛
同 四二、九	五〇〇、〇〇	山中清兵衛殿	「概」發行費トシテ
同 四三、七	一〇〇、〇〇	緒方銈次郎殿	經費中へ
同 一〇	五〇〇、〇〇	綾井 忠 彦殿	故長與稱吉氏ノ遺志ニ依リ
同 八	五〇〇、〇〇	長 與 立 吉殿	故島柳二氏ノ遺志ニ依リ
同 四四、七	二五〇、〇〇	島 一 之殿	故後藤節藏氏ノ遺志ニ依リ
同 八	二〇〇、〇〇	後藤 半 吉殿	研究費中へ
同 九	一〇〇、〇〇	大島 富士太郎殿	
同 四五、二	一〇〇、〇〇	長 與 立 吉殿	
同 四	二〇〇、〇〇	緒方 正 清殿	
大正二、四	一〇〇、〇〇	長島 鷺太 郎殿	
同 五	二五〇、〇〇	志立 鐵次 郎殿	
同 六	一〇〇、〇〇	檜山 剛 三殿	
大正三、三	一〇〇、〇〇	岩永 裕 吉殿	

〇技 録

ウラル、ノミナリ、ソノ因子ノ動物體內ニ於テ形成セラル  
ル機轉ハ不明ナリ、レイチユ氏ハ述ベテ曰ク、ルース肉腫  
ノ濾液中ノ病原體ガジャイ氏、くろろふおるむ法ニテ確實  
ニ破壊セラルルコトガ證明セラル、ナラバジャイ氏ノ見  
解ハ一層確實性ヲ増スベシト。(鈴木抄)





大正三、三、四

五

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

五〇〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

一、〇〇〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

一〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

三〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

二〇〇、〇〇〇

七〇〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇

五〇、〇〇〇

男爵

青山胤通殿

男爵

堀越角次郎殿

男爵

西村直殿

男爵

澁澤榮一殿

男爵

茂木七郎右衛門殿

男爵

山本厚太郎殿

男爵

田村寛貞殿

男爵

藤田俊一殿

男爵

岸清一殿

男爵

山尾庸三殿

男爵

森下博殿

男爵

芝川又四郎殿

男爵

安田善三郎殿

男爵

森村勇殿

男爵

森村市左衛門殿

男爵

益田達殿

男爵

木下正中殿

男爵

志賀潔殿

男爵

増田増藏殿

同

同

同

同

同

研究費中へ

故免禮氏慈善基金中ヨリ

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

研究費中へ









# 癌第十九年總目次

## 第一冊

### 一、原著

脂肪酸注射ニ由ルまうすノ特發癌ニ對スル抵抗力増進、就中、手術後ノ再發抑止ニ就キテ……………中原和郎……………一

石炭たゝる塗布ニ因ルまうす皮膚變化ニ就テ（人工たゝる癌ノ研究）……………柏木正俊……………一〇  
びちろゝる注射ニ因リ家兔乳腺部ニ發生セル肉腫性腫瘍……………金木正俊……………一〇  
……………金子清……………四九  
……………中村富……………四九

## 第二冊

魚類腫瘍ノ研究……………高橋敬三……………八一

肉腫及癌腫ヲ合併セル一剖檢例ニ就テ……………小山正道……………一二八

白鼠ノ乳腺ヨリ發生セル纖維性腺腫ノ一例……………

附白鼠發育各時期妊娠時及ビ產褥時ニ於ケル乳腺ノ脂肪及ビ腺腫ト……………



一個兎耳たゝる塗擦後ニ於ケル他側兎耳ノたゝる塗擦ニ對スル反應	金子清一	二六四
たゝる癌發生ノ際ニ於ケル彈力纖維及肥胖細胞ノ消長	中村富保	二七〇
マレー氏たゝるえゝてゐるえきすとらくと塗擦ニ於ケル二三興味アル所見	福田	二七〇
らつてノ胃癌發生ニ於テ	東俊郎	二七三
移植腫瘍ノ發育ト被移植動物ノ體量トノ關係ニ就テ	藤卷真知	二七五
良性腫瘍ノ移植實驗	寺田秀男	二七八
自鼠ニ於ケル癌腫ノ内分泌臟器竝ニ生殖腺ニ及ボス影響ニ就テ	有馬宗雄	二七八
所瘍ノ家鶏輸卵管移植ニ就テ	白井計一	二八〇
聽器ニ於ケル惡性腫瘍ノ移植實驗(癌腫及肉腫兩腫混合移植ニ就キテ)	鳥海照雄	二八一
鼠癌ノ腦質内移植増殖ニ對スル腦質ノ生物學的意義	松野鉦吉	二八五
人類惡性腫瘍ノ犬族齒髓内移植試驗ニ就テ	細田忠四郎	二八六
動物膜ヲ用ヒテセル動物腫瘍ノ異種移植ノ成績ニ就テ	山崎和雄	二八八
腫瘍ノ移植及増殖ニ關スル實驗的研究(第三同報告)	齋藤悅朗	二九二
性質ヲ異ニセル病態増殖組織相互間ノ關係(腫瘍ト異種腫瘍)	田村總七	二九四
可移植性鼠肉腫狀新生物ニ就テノ實驗的研究(第四報告)	新島和	二九七
家鶏腫瘍ノ研究(第八)	久保久雄	二九九
家鶏肉腫濾過試驗 其一かたふかれゝ及吸著ニ關スル實驗	小喜多晴雄	三〇四
腫瘍組織轉移ノ病理(家鶏肉腫ニ於ケル實驗)	大島福造	三〇九
	露木寛	三〇九
	森谷樹溫	三一
	鈴江濱	三一六



ノ機能關係ニ就テ……………小山正道・一四四

### 第三册

白鼠ニ於ケル癌腫ノ内分泌臟器竝ニ生殖腺ニ及ボス影響……………鳥海照雄・一六五

### 第四册

第四腦室ぐりおざるこゝむノ一例……………福田保・三九一

魚類腫瘍ニ關スル知見補遺……………佐川英二・四〇〇

きりりぐらふヲ放射セル血清ノ靜脈内注射ニ由ル人工癌きりりぐら

ふニ就テ……………市川厚一・四〇八

## 二、抄録

### 第一册

アメリカ癌研究會第十七回集會ニ於ケル研究報告……………五八

### 第二册

まうす及びらつてニ於ケルたゝる肉腫ノ實驗的發生らつてノ實驗的肉腫……………Lange・一六〇

### 第三册(癌研究會第十七回學術集談會演說)

石炭たゝる塗布ニ因ルまうす皮膚變化ニ就テ(第二回報告)……………柏木正俊・二六三

痛まうすニ對スルかるちのりじん注射實驗成績

癌腫ノX光線治療成績(報告第二)

岐阜縣下ニ於ケル惡性腫瘍ノ地理的統計

家鴿ニ於ケルかんくろいど性率丸てらとーむニ就テ

癌頻度ト癌増加問題

食物が實驗的まうす癌發生ニ及ボス影響

酸性色素ニヨリ移植癌ノ生體染色ニ就テ

#### 第四册

白鼠及まうすニ於テ一定ノ制限食餌が腫瘍ノ移植及發育ニ及ボス影響

エンセン氏鼠肉腫ノ退行現象

癌腫家族其後研究

まうすニ於ケル實驗的胎生腫瘍研究上ノ注意

Jackall ニ於ケル腎臟癌腫

黑熊ノ幽門部滑平筋腫

放射腫瘍組織ヲ以テシテハ免疫ハ成立セズ

惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ニ關スル研究

スルらつど量ノ測定

惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ノ研究

第十九年總目次

山極靜三 三七八〇

塚原重雄 三七二

吉野村久中 三七七

田川萬次 三八四

Cohrs 三八四

Palter 三八四

Fehner 三八五

Engel 三八五

杉浦 四一一

ウオグロム 四一一

ワルトヒン 四一二

ブルロウス 四一二

ブラウト 四一三

ワルシユ 四一三

ウリゴセン 四一三

家兔肉腫ノ發育及ビ轉移ニ關スル實驗的研究(一)血像ノ變化(二)發育及轉移ノ狀態(三)臟器ノ變化

移植腫瘍ノ新陳代謝(第二回報告)

らつて癌組織内ニ發現スルぐりこげーんニ就テ

神經切斷ト上皮異型増殖トノ關係ニ就テ

人類腫瘍及家兔實驗腫瘍ト神經トノ關係

白鼠肉腫ノ成長ニ及ボスふろりちんノ作用ニ就テ(第一回報告)

血管結紮ノ腫瘍發育ニ及ボス影響ニ就テ

血管結紮ガ家鶏肉腫ノ移植及増殖ニ及ボス影響ニ就テ

癌腫ト動脈硬化症トノ關係

魚類腫瘍ノ研究(續)

家鶏輸卵管ニ發生スル筋腫ニ就テ

松果腺腫瘍ノ一例

子宮癌竝ニ筋腫ノ合併症例

レクリンガハウゼン氏病ノ惡性化ニ就テ

胃細胞溶解素ノ胃液ニ及ブ影響ヨリ胃癌ノ場合ニ於ケル胃液ノ分泌ニ就テ

惡性腫瘍ノ Tumourisin 療法

かるちのりじんノまうす癌ニ對スル實驗

長岡德太郎 三二三

一本間純 三二七

上代彌吉 三二九

木村嘉一 三三〇

市川厚彦 三三三

市川厚彦 三三三

有馬宗雄 三三九

額綱兵 三四一

堀内正重 三四二

鈴江懷 三四七

高橋敬 三五一

露木寛 三五四

松野謙吾 三五六

水谷喜治 三六一

江川直温 三六三

藤井靜雄 三六三

蔭沼憲二 三六四

小此木修三 三六五

小此木修三 三六五

坂口武雄 三六八



三、放射肉腫細胞ノ一回注射ガ同種移植腫瘍ノ發育ニ及ス影響	ス マ ル	四一四
惡性腫瘍ニ對スル生物學的抵抗力ノ研究	ス マ ル	四一四
四、放射肉腫細胞ノ數回注射ガ同種移植腫瘍發育ニ及ス影響	ス マ ル	四一五
もるもつと心臓ニ發生セル肉腫	ス マ ル	四一五
腫瘍組織ノいんしゅリン含有量	ス マ ル	四一六
病原體ト癌腫	ス マ ル	四一六

京橋區木挽町三丁目二一  
小石川區林町四  
東京帝國大學醫學部病理學教室  
東京帝國大學醫學部吳內科醫局

Kノ部

神田區駿河臺南甲賀町一三  
東京帝國大學醫學部病理學教室  
四谷區慶應義塾大學醫學部病理細菌學教室  
四谷區慶應義塾大學醫學部婦人科醫局  
小石川區駕籠町二五三  
東京慈惠會醫科大學病理學教室  
日本橋區本町一ノ一二  
日本橋區箱崎町四ノ一  
麹町區一番町三八  
赤坂區青山南町五ノ三七  
本郷區龍岡町二二  
本郷區森川町一、二九〇  
麻布區仲ノ町一九  
本郷區西片町一〇、一三三  
本郷區龍岡町二三  
小石川區林町九七  
芝區愛宕下町四丁目一

池田悅次郎  
池田泰雄  
池田三雄  
一色嗣武

金杉英五郎  
金子義晃  
川上漸  
川添正道  
神尾友修  
上代彌吉  
菊地循一  
河野敦信  
木村德衛  
木村哲二  
木村敬義  
木下正中  
北里柴三郎  
小林幹  
近藤潤平  
近藤次繁  
久保德太郎

Mノ部

芝區白金今里町七七  
本郷區彌生町二(洋行中)  
小石川區久堅町六九  
半込區上宮比町五  
小石川區原町一〇六  
府下西巢鴨町平松一五二二  
牛込區北山伏町三三  
本郷區追分町二〇  
赤坂區檜町一  
牛込區甲賀町一一  
牛込區砂土原町三  
神田區駿河臺袋町五  
神田區裏猿樂町三ノ四〇  
東京帝國大學醫學部病理學教室  
芝區愛宕町三ノ一  
日本橋區村松町三七  
本郷區曙町七  
麻布區本村町四四  
東京齒科醫學專門學校病理學教室  
京橋區築地聖路加國際病院  
東京帝國大學醫學部病理學教室(洋行中)

草間滋  
隈川八郎  
柏木正俊

森安連吉  
茂貫利次  
村上幸多  
向山孝吉  
向井又吉  
南大曹  
三内多喜治  
三田村篤志郎  
三浦謹之助  
三輪信太郎  
三和功  
宮原立太郎  
宮田哲雄  
宮川米次郎  
松川陸郎  
松山陸郎  
正木正藏  
松岡久藏  
馬杉復三

○會員名簿

Aノ部

小石川區原町一二五  
四谷區新宿東京鐵道病院外科  
神田區淡路町二ノ四  
芝區三田四國町一五  
本郷區駒込千駄木町五四  
本郷區弓町二丁目二四  
麴町區富士見町五ノ二三  
神田區西小川町二ノ一一  
慶應醫科大學病理細菌學教室

Cノ部

淺草區左衛門町二

Dノ部

麴町區下二番町四六

Fノ部

本郷區駒込西片町九  
本郷區西片町一〇にノ一一  
東京帝國大學醫學部病理學教室

Hノ部

男爵  
阿部喜一 郎  
阿部養一 夫  
岡久津三 郎  
雨宮量七 郎  
尼子四郎  
青山徹藏  
朝倉文三  
淺見忠兵衛  
有馬宗雄

千葉真一

土肥慶藏

富士川游  
福士政一  
福田保

赤坂區丹後町三三

芝區琴平町三

芝區柴井町三

京橋區南鍋町一ノ四

麻布區龍土町五五

東京帝國大學醫學部入澤内科醫局

麻布區飯倉町三丁目一五

牛込區辨天町七四

四谷區南伊賀町一八

芝區西久保城山町八

麻布區永坂町六八

日本橋區濱町二ノ一

牛込區矢來町八、一號

Iノ部

麴町區富士見町一ノ二九

小石川區大塚町二六

本郷區森川町一宮裏

小石川區駕籠町一七〇

小石川區表町三七第一號

本郷區弓町二丁目三四

本郷區湯島新花町九五

堀田四郎  
堀内彌二郎  
細野順  
本田雄五郎  
本多忠夫  
本間純  
林春雄  
木村  
芳賀榮次郎  
樋口繁次  
平山金藏  
平石貞市  
平井政道  
入田善之進

男爵  
石原喜久太郎  
石川正臣  
入澤達吉  
稻垣真吉  
稻田龍吉  
磐瀬雄一  
岩佐新

Uノ部

淺草區小島町樂山堂病院  
麻布區三軒家町三六  
麻布區山元町五九

Wノ部

京橋區越前堀一丁目四

Yノ部

四谷區七軒町四  
本郷區湯島順天堂研究所  
赤坂區青山北町七ノ一  
麻布區櫻田町三〇  
小石川區上富坂町七  
牛込區市ヶ谷仲之町四三  
芝區白金三光町北里研究所  
芝區愛宕町東京慈惠會醫科大學研究所  
小石川區東大醫學部分院

●在地方

Aノ部

名古屋市中區七曲町三ノ一三

○會員名簿

宇野 朗  
白井 宏  
上野 信四郎

和田 劍之助

橫森 賢次郎

橫田 利邦

吉河 爲久藏

吉本 清太郎

吉井 丑三郎

八代 豐雄

山崎 和雄

山川 保泉

足立 亨太郎

Fノ部

長野縣屋代驛前  
仙臺市北二番町五〇  
九州帝國大學醫學部整形外科  
朝鮮龍山朝鮮軍軍醫部長官舍

熊本市新町三ノ四九

京都帝國大學醫學部病理學教室

神戸市兵庫縣立病院胃腸科

北海道帝國大學醫學部病理學教室

金澤醫科大學法醫學教室

朝鮮釜山獸疫血清製造所

東京府下西大久保町三六六

Gノ部

栃木縣那須郡烏山町烏山病院

Hノ部

市外野方町新井五〇三  
愛知醫科大學病理學教室  
大阪市東區高麗橋詰町三八  
臺灣總督府醫學專門學校(洋行中)  
京都帝國大學醫學部病理學教室

足立 修  
青木 薫  
淺田 爲義  
秋山 鍊造

藤井 壽松

藤瀨 鑑

藤繩 喜代藏

古畑 種保

福島 信基

二本 謙三

後藤 健介

原田 定次

林直 助

廣瀬 豐一

本名 文任

本名 田關



○會員名簿

東京帝國大學醫學部病理學教室  
本郷區本郷五丁目三二

Nノ部

麻布區市兵衛町二ノ八八  
日本橋區高砂町  
小石川區駕籠町二三八  
下谷區下根岸七六  
四谷區信濃町二八  
赤坂區青山北町五丁目二  
小石川區大塚中町四一〇ノ七號  
本郷區湯島順天堂研究所

Oノ部

小石川區丸山町一九  
小石川區小日向臺町二丁目二六  
東京帝大醫學部病理學教室  
慶應醫科大學病理細菌學教室  
麴町區三番町三六  
神田區駿河臺鈴木町一五  
四谷區西信濃町一一  
東京帝國大學醫學部病理學教室

Sノ部

町井 剛  
丸山 正

長與 又郎  
中原 德太郎  
中原 和郎  
西野 信光  
西野 忠次郎  
西井 烈  
仁田 直  
額田 晉

大槻 菊男  
大場 勝利  
大沼 貞藏  
大串 市左衛門  
岡田 和一郎  
小畑 惟清  
小此木 修三  
緒方 知三郎

芝區今入町三

神田區駿河臺北甲賀町一一  
本郷區駒込曙町一三ホノ三  
四谷區尾張町七  
本郷區湯島順天堂病院  
本郷區湯島天神町二ノ一二  
本郷區弓町一ノ一〇  
小石川區小日向臺町二ノ二六  
本郷區西片町一〇ハノ三〇  
本郷區彌生町三ハノ六號  
東京帝國大學醫學部病理學教室  
本郷區西片町十に三十八號

Tノ部

麴町區三番町三〇  
麻布區森元町一丁目二七  
麻布區東島居坂町一三  
本郷區森川町一宮前  
四谷區内藤新宿番衆町一〇  
牛込區中里町二三  
東京帝國大學醫學部病理學教室  
芝區白金三光町四五  
京橋區築地聖路加國際病院

四

佐藤 敏夫  
佐々木 政吉  
佐藤 三吉  
佐藤 達次郎  
佐藤 亨  
澤木 富次郎  
鹽田 廣重  
鹽見 長衛  
鹽谷 不二雄  
島蘭 順次郎  
鈴木 誠一  
佐伯 誠一

高田 勝安  
高橋 信  
高木 喜寛  
男爵 田代 義徳  
多納 榮一郎  
田中 廣志  
竹内 甲平  
遠山 椿吉  
トイ スラ

德島市寺町古川病院  
新潟醫科大學病理學教室

Mノ部

新潟市東堀前通七番町  
富山市殿町三  
神奈川縣足柄下郡小田原町四六二  
東京府下瀧野川町西ヶ原四  
熊本市北千反畑町二五  
市外目黒村三田四〇  
大阪醫科大學病理學教室  
滋賀縣神崎郡南五個莊村  
神奈川縣久良岐郡大岡川村中里  
名古屋鐵道病院內科  
兵庫縣武庫郡今津町  
三重縣三重郡羽津村羽浦病院  
市外瀧野川町獸疫調查所  
京都市上京區高倉丸太町下ル

ノ部

京都市上京區中立賣通室町西へ入  
京都府立醫科大學病理學教室  
金澤醫科大學病理學教室

○會員名簿

古川市次郎  
小山正道

前田待三

松井捨八郎

間中直七郎

宮入清四郎

三田角

三田定則

村田宮吉

村地研三

村山小七郎

武藤昌知

百瀬一

森田正一

森田平次郎

望月惇一

中西龜太郎

中本完二

中村八太郎

九州帝國大學醫學部皮膚科教室  
東京府下調布町村田田園都市二九八號  
神奈川縣中郡平塚村杏雲堂分院  
橫濱市太田町六ノ九八  
函館區船見町六三

大阪府東區牛入町七三五山崎方

兵庫縣魚崎町西村七三二ノ一一〇

Oノ部

東京府荏原郡入新井村不入斗一四八二

九州帝國大學醫學部第二外科

群馬縣新田郡太田町一八三

久留米市田町三八尾岡病院內

大阪市南區新町三丁目緒方病院

愛媛縣廳學務課

名古屋市愛知醫科大學病理學教室

札幌市北十六條西五丁目

北海道帝國大學醫學部病理學教室

Sノ部

新潟市營所通二番町

濱松市東鳴家觀音裏五四七

朝鮮龍山一四〇ノ四

中村龜市

中濱東一郎

永野重業

西川恒彌

西村安敬

根來祐春

岡本武次

岡部養逸

岡文造

尾關正意

緒方收二

大嶺三郎

大島福造

大野精七

小原正生

澤田敬義

佐々木達

佐々木四方志

○會員名簿

京都府立醫科大學病理學教室  
長崎醫科大學病理學教室  
大津市日本赤十字社支部病院

Iノ部

北海道帝國大學農學部比較病理學教室  
新潟縣中蒲原郡新津町  
大阪醫科大學肺癆科教室  
府下世田ヶ谷下北澤佐藤住宅  
新潟醫科大學  
市外大森町八景園坂上  
熊本市山崎町二九  
朝鮮京城大和町二ノ二四  
府下豐多摩郡千駄ヶ谷八九〇鶴田方  
千葉縣千葉町新町  
京都市堺町三條上ル  
千葉縣香取郡橋村  
朝鮮咸南新浦港  
支那北京日華同仁醫院  
新潟市學校町通二番町  
千葉縣安房郡館山町

Kノ部

本 田 郁 也  
本 田 偉 志 雄  
細 田 忠 四 郎

市 川 厚 一  
今 井 潔  
今 村 荒 雄  
池 邊 棟 三 郎  
池 田 廉 一 郎  
池 垣 長 次 郎  
稻 松 武 志  
稻 本 龜 五 郎  
井 深 健 次 郎  
井 上 善 次 郎  
猪 子 止 戈 之 助  
石 橋 松 藏  
伊 藤 岱 賢  
飯 島 庸 德  
川 村 麟 也  
川 名 博 夫

北海道小樽區入船町  
市外大久保百人町四九  
神戸市山手通五丁目  
横濱市十全病院  
香川縣綾歌郡陶村  
熊本醫大眼科教室  
高田市高田病院  
京都府立醫科大學病理學教室  
仙臺市北六番町二三〇  
大阪市南區鹽町四ノ九  
函館市富岡町五  
千葉縣安房郡北條町六軒町  
京都帝國大學醫學部微生物學教室  
京都府下愛宕郡田中村  
山口縣厚狹郡宇部新川  
島根縣立病院婦人科  
奉天滿洲醫科大學病理學教室  
北海道帝國大學醫學部病理學教室  
岐阜市秋津町  
東京府下瀧野川町西ヶ原王子腦病院  
横濱市元町二ノ九八  
東京府下駒場東京帝大農學部植物學教室  
長崎醫科大學

古 屋 野 宏 平  
小 室 英 史  
小 柳 千 足  
小 峯 茂 之  
小 坂 慶 二  
今 裕  
久 保 久 雄  
藏 光 長 次 郎  
國 重 嘉 吉  
清 野 謙 次  
清 野 謙 次  
貴 家 學 而  
木 村 孝 藏  
木 村 男 也  
木 村 嘉 一  
木 村 嘉 一  
風 間 美 顯  
鹿 兒 島 茂  
香 川 傳  
片 山 久 壽 賴  
桂 田 富 士 郎  
河 北 真 太 郎  
河 邨 百 合 人

Wノ部

越後岩井郡村上本町字飯野  
 鶴岡市莊内病院  
 朝鮮京城貞洞二

渡邊慶太郎  
 和合平之助  
 和田八千穂

Yノ部

大阪市桃山病院内  
 名古屋市南区熱田神宮東門前三本松  
 宮崎市宮崎縣立病院  
 臺灣總督府醫學專門學校病理學教室  
 大阪市東區今橋三丁目  
 宮城縣栗原郡一迫村真坂  
 府下青山原宿一七〇ノ二一  
 府下世田ヶ谷陸軍獸醫學校

山本利平  
 山本英忠  
 山本耕橋  
 横川定洋  
 湯川玄  
 吉澤運之助  
 吉澤惟雄  
 吉村市郎

名譽會員

二六

特別會員

二

市内會員

一二八

地方會員

一四九

計三百〇五名

○會員名簿



大正十四年十二月二十七日印刷  
大正十四年十二月三十日發行

賣捌書肆

東京市本郷區春木町  
同市日本橋區通  
同市本郷區湯島切通  
同市神田區新石町  
同市本郷區湯島切通  
同市龍岡町  
同市龍岡町

編輯者  
印刷者  
印刷所

東京市麻布區市兵衛町二ノ八八

長 與 又 郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

柴 山 則 常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

合資會社 杏 林 舍

牛田屋醫藥商店  
丸善堂書店  
南江堂書店  
朝香屋書店  
金原堂書店  
金江堂書店  
南江堂書店  
吐鳳堂書店

瘡			
邦文	一冊	正價	金壹圓五拾錢
歐文	一冊	正價	金壹圓五拾錢
各冊	正價	金壹圓五拾錢	
郵稅	金壹圓四拾錢		

# 第七回日本醫學會開催廣告

大正十五年四月一日ヨリ五日間東京帝國大學構内ニ於テ第七回日本醫學會ヲ開催ス。各分科會員諸氏ハ奮テ本會ヘ御入會ヲ乞フ。

## 一、開會順序

四月一日 開會式、總會演說  
四月二日  
四月三日 二十四分科會及合併部會開會  
四月四日  
四月五日 總會演說、閉會式、懇親會

## 二、會員資格

各分科會員ハ勿論、一般醫師及齒科醫師トス。  
會員ハ本會總會、各分科會及懇親會等ニ參列シ、會誌ノ配布ヲ受クルモノトス。

## 三、入會手續及會費

入會希望ノ方ハ住所氏名ヲ明記シ會費金參圓（振替貯金口座東京 番）ヲ添ヘ本會事務所宛申込マルベシ。  
申込順ニヨリ會員章竝ニ必要書類ヲ送附スベシ。

大正十五年一月

## 四、演說ニ關スル件

本會會員竝ビニ各分科會會員ハ各々希望ノ分科會ニ於テ演說スルコトヲ得（但シ內科學、外科學、病理學ヲ除ク）。故ニ自己ガ會員ニ非ザル他ノ分科會ニテ演說セントスル方ハ希望分科名及ビ演題ニ其内容抄録ヲ添ヘテ二月末日迄ニ本會事務所又ハ該分科會宛申込マルベシ。

## 五、合併部會ニ關スル件

今回ハ特ニ各分科會ニ提出セラレタル演題ノ中、結核、梅毒、腫瘍、X光線等ノ問題ニ限リ演者ノ希望ニ基キ夫々合併部會トシテ同問題ヲ一箇所ニ集メテ演說討論ヲ行フコトトセリ。故ニ上記ノ問題ニ就テ演說セラル、方ハ、直接本會事務所ヘ合併部會演說トシテ申込マル、カ又ハ各分科會ヘ演題申込ノ際、合併部會ニテ演說希望ノ有無ヲ附記セラレタシ。

# 第七回日本醫學會

事務所 東京帝國大學醫學部事務室内





		1875		1876		1877		1878		1879		1880		1881		1882		1883		1884		1885		1886		1887		1888		1889		1890		1891		1892		1893		1894		1895		1896		1897		1898		1899		1900		1901		1902		1903		1904		1905		1906		1907		1908		1909		1910		1911		1912		1913		1914		1915		1916		1917		1918		1919		1920		1921		1922		1923		1924		1925		1926		1927		1928		1929		1930		1931		1932		1933		1934		1935		1936		1937		1938		1939		1940		1941		1942		1943		1944		1945		1946		1947		1948		1949		1950		1951		1952		1953		1954		1955		1956		1957		1958		1959		1960		1961		1962		1963		1964		1965		1966		1967		1968		1969		1970		1971		1972		1973		1974		1975		1976		1977		1978		1979		1980		1981		1982		1983		1984		1985		1986		1987		1988		1989		1990		1991		1992		1993		1994		1995		1996		1997		1998		1999		2000		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024		2025		2026		2027		2028		2029		2030		2031		2032		2033		2034		2035		2036		2037		2038		2039		2040		2041		2042		2043		2044		2045		2046		2047		2048		2049		2050		2051		2052		2053		2054		2055		2056		2057		2058		2059		2060		2061		2062		2063		2064		2065		2066		2067		2068		2069		2070		2071		2072		2073		2074		2075		2076		2077		2078		2079		2080		2081		2082		2083		2084		2085		2086		2087		2088		2089		2090		2091		2092		2093		2094		2095		2096		2097		2098		2099		2100		2101		2102		2103		2104		2105		2106		2107		2108		2109		2110		2111		2112		2113		2114		2115		2116		2117		2118		2119		2120		2121		2122		2123		2124		2125		2126		2127		2128		2129		2130		2131		2132		2133		2134		2135		2136		2137		2138		2139		2140		2141		2142		2143		2144		2145		2146		2147		2148		2149		2150		2151		2152		2153		2154		2155		2156		2157		2158		2159		2160		2161		2162		2163		2164		2165		2166		2167		2168		2169		2170		2171		2172		2173		2174		2175		2176		2177		2178		2179		2180		2181		2182		2183		2184		2185		2186		2187		2188		2189		2190		2191		2192		2193		2194		2195		2196		2197		2198		2199		2200		2201		2202		2203		2204		2205		2206		2207		2208		2209		2210		2211		2212		2213		2214		2215		2216		2217		2218		2219		2220		2221		2222		2223		2224		2225		2226		2227		2228		2229		2230		2231		2232		2233		2234		2235		2236		2237		2238		2239		2240		2241		2242		2243		2244		2245		2246		2247		2248		2249		2250		2251		2252		2253		2254		2255		2256		2257		2258		2259		2260		2261		2262		2263		2264		2265		2266		2267		2268		2269		2270		2271		2272		2273		2274		2275		2276		2277		2278		2279		2280		2281		2282		2283		2284		2285		2286		2287		2288		2289		2290		2291		2292		2293		2294		2295		2296		2297		2298		2299		2300		2301		2302		2303		2304		2305		2306		2307		2308		2309		2310		2311		2312		2313		2314		2315		2316		2317		2318		2319		2320		2321		2322		2323		2324		2325		2326		2327		2328		2329		2330		2331	
--	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--	------	--